

2025年度第1四半期決算説明資料

Financial Results for First Quarter FY2025
(for the year ending March 31, 2026)

2025年8月6日

川崎重工業株式会社



 **Kawasaki**
Powering your potential

0 決算・業績見通しハイライト

2025年度第1四半期決算実績

- ✓ 事業利益は**205**億円（前年同期比+35億円）、通期予想1450億円に対し進捗率14%（前年度は12%）と順調な滑り出し
- ✓ 1Q期間における米国関税政策の影響は軽微

2025年度業績見通し

- ✓ **米国関税政策の影響を通期業績見通しに反映**（期初時点ではPS&Eセグメントにおいて間接的な影響を一部織り込み）
- ✓ 関税増によるコストアップはあるものの、**期初の事業利益予想1450億円を維持**（2Q以降の為替前提レートを1ドル140円から145円に修正）

0 目 次

1

2025年度第1四半期決算実績

サマリー	5
セグメント別	6
損益計算書	7
事業損益増減要因	9
財政状態計算書	11
キャッシュ・フロー計算書	13

2

2025年度業績予想

サマリー	16
事業損益増減要因	17
セグメント別	18

3

セグメント別詳細情報

航空宇宙システム	21
車両	26
エネルギーソリューション&マリン (略称：ES&M)	29
精密機械・ロボット	33
パワースポーツ&エンジン (略称：PS&E)	37

4

株主還元、その他

株主還元	42
プロジェクトピックス	43
参考資料	46

ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。なお、当社は2022年度第1四半期よりIFRS（国際財務報告基準）を適用しています。

1

2025年度第1四半期決算実績

Financial Results for First Quarter FY2025
(for the year ending March 31, 2026)

1 2025年度1Q決算実績 – サマリー

- ✓ 前年同期比で増収・増益（事業利益）、1Qにおける売上収益としては過去最高を記録
- ✓ 税前利益・純利益は円高進行に伴う為替差益の縮小等（前年同期比）により減益

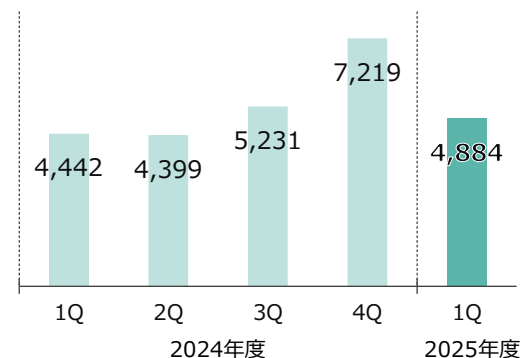
（単位：億円）

	'24年度1Q	'25年度1Q	前年同期比
受注高	4,568	4,463	▲ 105
売上収益	4,442	4,884	+ 442
事業利益	169	205	+ 35
[利益率]	[3.8%]	[4.2%]	[+ 0.3pt]
税引前四半期利益	258	168	▲ 90
[利益率]	[5.8%]	[3.4%]	[▲ 2.3pt]
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	153	42	▲ 111
[利益率]	[3.5%]	[0.9%]	[▲ 2.5pt]
売上加重平均レート(USD/JPY) ^{※1}	153.34	143.79	▲ 9.55
損益影響外貨量(億USD) ^{※2}	4.9	5.2	+ 0.3

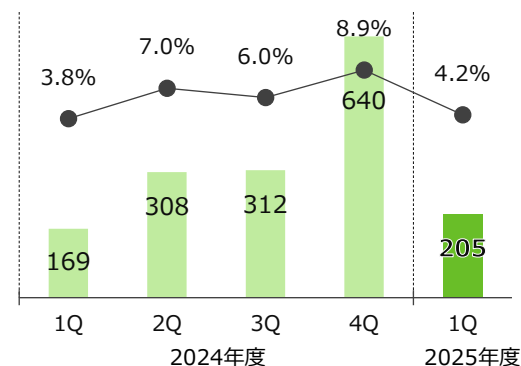
※1 PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る損失の影響を除く

※2 為替変動に伴い事業利益に影響を与える外貨量であり、川崎重工業、川崎車両、カワサキモータースのドル建売上からドル建仕入を控除して算出（損失引当済み案件の外貨建売上を含む。但し、PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高を含まない）。当該数値のセグメント別内訳はP.51を参照

／ 四半期別 売上収益 (億円)



／ 四半期別 事業利益 (億円), 利益率



- ✓ 車両は前年同期にあった一時的な損益悪化※の反動に加え、採算性の改善 ①
により増益 ※ 間接費配賦率の見直しを実施した影響
- ✓ 航空宇宙システムは期初の一時的な減収や民間航空エンジン（新造）の台数増等 ②
により減益

(単位：億円)

	受注高			売上収益			事業損益		
	'24年度1Q	'25年度1Q	増減	'24年度1Q	'25年度1Q	増減	'24年度1Q	'25年度1Q	増減
航空宇宙システム	882	989	+ 107	1,049	1,015	▲ 33	48	8	▲ 40
車両	170	148	▲ 22	438	552	+ 114	▲ 14	36	+ 51
Iヘルパーソリューション&マリッ	1,218	866	▲ 352	801	966	+ 165	59	97	+ 37
精密機械・ロボット	616	639	+ 22	526	569	+ 42	▲ 1	23	+ 24
パワースポーツ&エンジン	1,447	1,602	+ 155	1,447	1,603	+ 155	115	80	▲ 34
その他	233	217	▲ 15	178	176	▲ 1	7	16	+ 9
調整額※	-	-	-	-	-	-	▲ 45	▲ 58	▲ 12
合計	4,569	4,463	▲ 105	4,442	4,884	+ 442	169	205	+ 35

※ 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

2025年度1Q決算実績 – 損益計算書

(単位：億円)

	'24年度1Q	百分率	'25年度1Q	百分率	増減
売上収益	4,442	100.0	4,884	100.0	+ 442
売上原価	3,588	80.8	3,966	81.2	+ 378
売上総利益	854	19.2	918	18.8	+ 63
販売費および一般管理費	738	16.6	769	15.8	+ 30
うち 給料および手当	196		203		+ 7
研究開発費	134		136		+ 1
その他	407		429		+ 21
持分法による投資利益	58		61		+ 3
その他の収益および費用(▲は損)	▲ 4		▲ 5		▲ 0
うち 固定資産売却益	7		0		▲ 6
その他	▲ 11		▲ 6		+ 5
事業利益	169	3.8	205	4.2	+ 35

要因説明

- ① 販管費は売上成長に伴い増加も、販管費率は低下

(単位：億円)

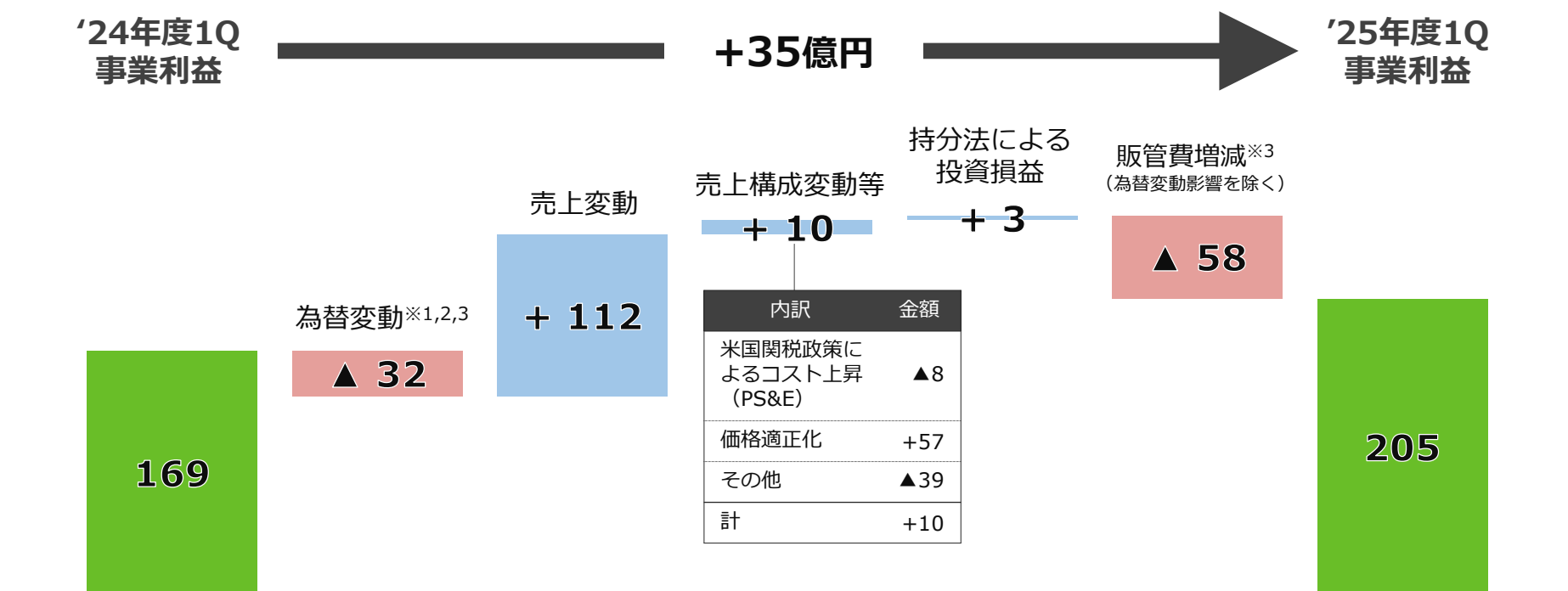
	'24年度1Q	百分率	'25年度1Q	百分率	増減
金融収益および費用(▲は損)	89		▲ 36		▲ 126
うち 金融収支(受取配当金含む)	▲ 19		▲ 26		▲ 7
為替差損益	129		1		▲ 127
その他	▲ 20		▲ 12		+ 8
税引前四半期利益	258	5.8	168	3.5	▲ 90
法人所得税費用	99		95		▲ 4
非支配持分に帰属する四半期利益	5		30		+ 25
親会社の所有者に帰属する四半期利益	153	3.5	42	0.9	▲ 111

要因説明

- ② 税引前四半期利益に対する表面税負担率が56%と高水準も、簡便法を使用した税額算出による一時的な上昇であり、通期では実効税率近くに収れん見込み
- ③ '25年4月 PS&Eの事業会社であるカワサキモータース(株)の株式20%を伊藤忠商事(株)に譲渡したことに伴い、非支配持分が増加

2025年度1Q決算実績 – 事業損益増減要因

- ✓ 売上変動ではPS&Eが販売台数増により大きく寄与
- ✓ 売上構成変動等では車両の採算性改善が顕著に表れるも、PS&Eで悪化



※1 USDやEURを含む複数種類の通貨の変動に伴う事業利益への直接的な影響額を示していますが、間接的な影響額（物価変動影響など）は「売上構成変動等」および「販管費増減」に含まれています

※2 PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高の為替変動に伴う評価替え影響（+52億円）を含む

※3 従来、「販管費増減」は損益計算書表示上の増減値を示していましたが、2024年度2Q決算説明資料以降、当該項目から為替変動による影響を控除した増減値を示すよう変更しています。また、当該項目から控除された為替変動による影響は「為替変動」に含まれます（P.22以降に掲載されている各セグメントの増減要因グラフも同様）

2025年度1Q決算実績 – 事業損益増減要因

(単位：億円)

	'24年度1Q 事業損益	増減要因					増減 計	'25年度1Q 事業利益
		為替変動※1	売上変動※1	売上構成 変動等※1	持分法による 投資損益	販管費※3 (▲は増加)		
航空宇宙システム	48	※2 2	▲ 11	▲ 14		▲ 17	▲ 40	8
車両	▲ 14	▲ 7	8	51	0	▲ 1	51	36
IHエンジン・リレー・ポンプ&マリン	59	▲ 2	28	23	▲ 1	▲ 11	37	97
精密機械・ロボット	▲ 1	▲ 6	9	18	5	▲ 2	24	23
パワー・スプロケット&エンジン	115	▲ 19	78	▲ 79	▲ 0	▲ 14	▲ 34	80
その他	7	0	0	11	▲ 1	▲ 1	9	16
調整額	▲ 45			▲ 1	▲ 0	▲ 11	▲ 12	▲ 58
合計	169	▲ 32	112	10	3	▲ 58	35	205

※1 増減要因のうち、為替変動、売上変動および売上構成変動等は、当社が一定の基準を定めて算出した概算値です。

また、それぞれの増減要因は不可分であることも多く、特に売上変動と売上構成変動等は合算した金額を確認することが望ましい場合があります

※2 PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高の為替変動に伴う評価替え影響（+52億円）を含む

※3 為替変動影響を除く

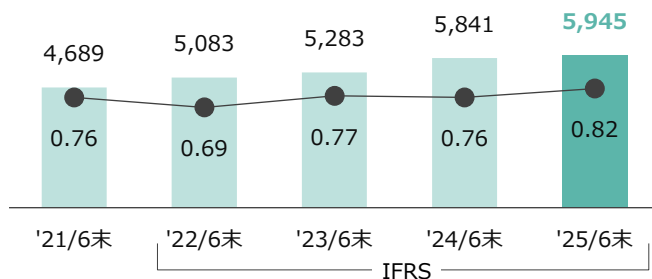
(単位：億円)

	'24年度末	百分率	'25年度 1Q末	百分率	増減
現金および現金同等物	1,327		739		▲ 588
売掛債権（契約資産を含む）	8,888		8,106		① ▲ 782
棚卸資産	7,754		8,010		+ 256
その他	2,268		2,691		+ 422
流動資産 計	20,239	67.1	19,547	65.8	▲ 691
有形・無形固定資産	5,915		5,945		+ 30
使用権資産	586		624		+ 37
繰延税金資産	1,287		1,272		▲ 15
その他	2,140		2,300		+ 160
非流動資産 計	9,930	32.9	10,142	34.2	+ 212
資産合計	30,169	100.0	29,689	100.0	▲ 479

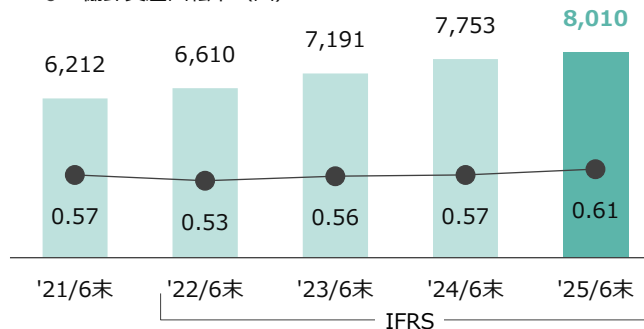
要因説明

- ① 航空宇宙事業やプラント事業、PS&E等で減少

有形・無形固定資産（億円）
● 固定資産回転率（回）



棚卸資産（億円）
● 棚卸資産回転率（回）



(単位：億円)

	'24年度末	百分率	'25年度 1Q末	百分率	増減
買掛債務	5,121		4,907		▲ 213
有利子負債	6,925		6,632		② ▲ 292
契約負債（前受金）	3,635		3,912		+ 277
受注工事損失引当金	51		55		+ 4
退職給付に係る負債	671		679		+ 8
その他	6,515		5,560		▲ 955
負債 計	22,918	76.0	21,747	73.3	▲ 1,171
親会社の所有者に帰属する持分	7,029		7,359		+ 329
非支配持分	221		583		③ + 361
資本 計	7,250	24.0	7,942	26.8	+ 691
負債および資本合計	30,169	100.0	29,689	100.0	▲ 479

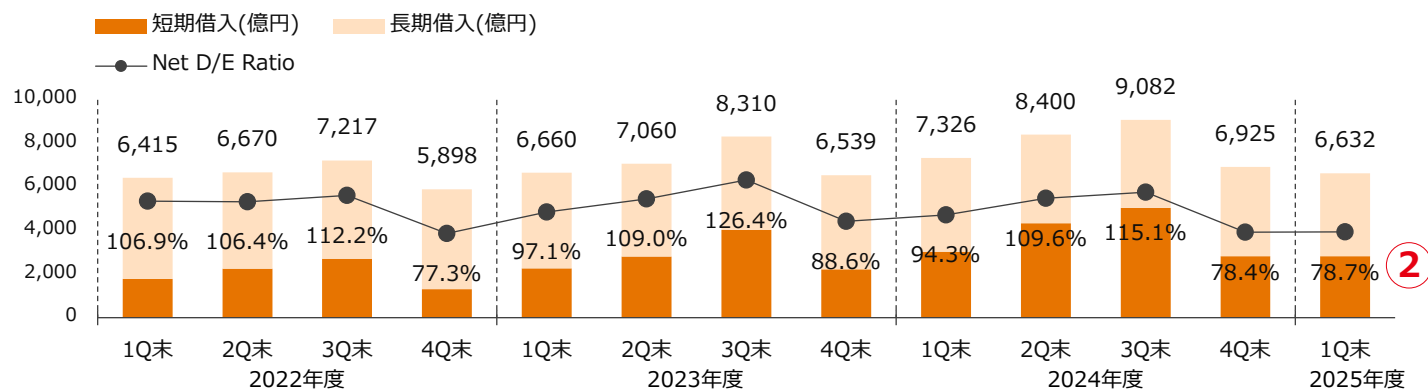
要因説明

- ② PS&Eの事業会社である力
ワサキモータース(株)の株
式20%を伊藤忠商事(株)に
譲渡した対価800億円の
一部を有利子負債返済に
充当
- ③ PS&Eの事業会社である力
ワサキモータース(株)の株
式20%を伊藤忠商事(株)に
譲渡したことによる増加

補足情報

Cash Conversion Cycle
の推移（単位：日）

	CCC
'21年度1Q末	141
'22年度1Q末	146
'23年度1Q末	146
'24年度1Q末	159
'25年度1Q末	148



(単位：億円)

	'24年度1Q	'25年度1Q	増減
税引前四半期利益	258	168	▲ 90
減価償却費	208	243	+ 34
運転資本構成項目の増減額	72	403	+ 331
うち 売上債権 ^{※1} の増減額(▲は増加)	576	747	+ 170
棚卸資産の増減額(▲は増加)	▲ 499	▲ 295	+ 203
仕入債務の増減額(▲は減少)	▲ 183	▲ 198	▲ 15
前渡金の増減額(▲は増加)	▲ 332	▲ 147	+ 185
契約負債 ^{※2} の増減額(▲は減少)	510	297	▲ 212
その他	▲ 303	▲ 893	▲ 589
営業活動によるキャッシュ・フロー	236	▲ 77	① ▲ 313
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 255	▲ 261	▲ 5
有形・無形固定資産の売却による収入	13	2	▲ 11
その他	▲ 19	▲ 122	▲ 103
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 261	▲ 381	▲ 120
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 24	▲ 458	▲ 433
借入金および社債の純増減額(▲は減少)	696	② ▲ 325	▲ 1,021
配当金の支払額(非支配株主への支払を除く)	▲ 47	▲ 128	▲ 80
債権流動化による収入および返済による支出	▲ 276	▲ 379	▲ 102
その他	▲ 100	② 705	+ 806
財務活動によるキャッシュ・フロー	271	▲ 127	▲ 398

※1,2 売上債権には契約資産を含む。契約負債の旧科目名は前受金

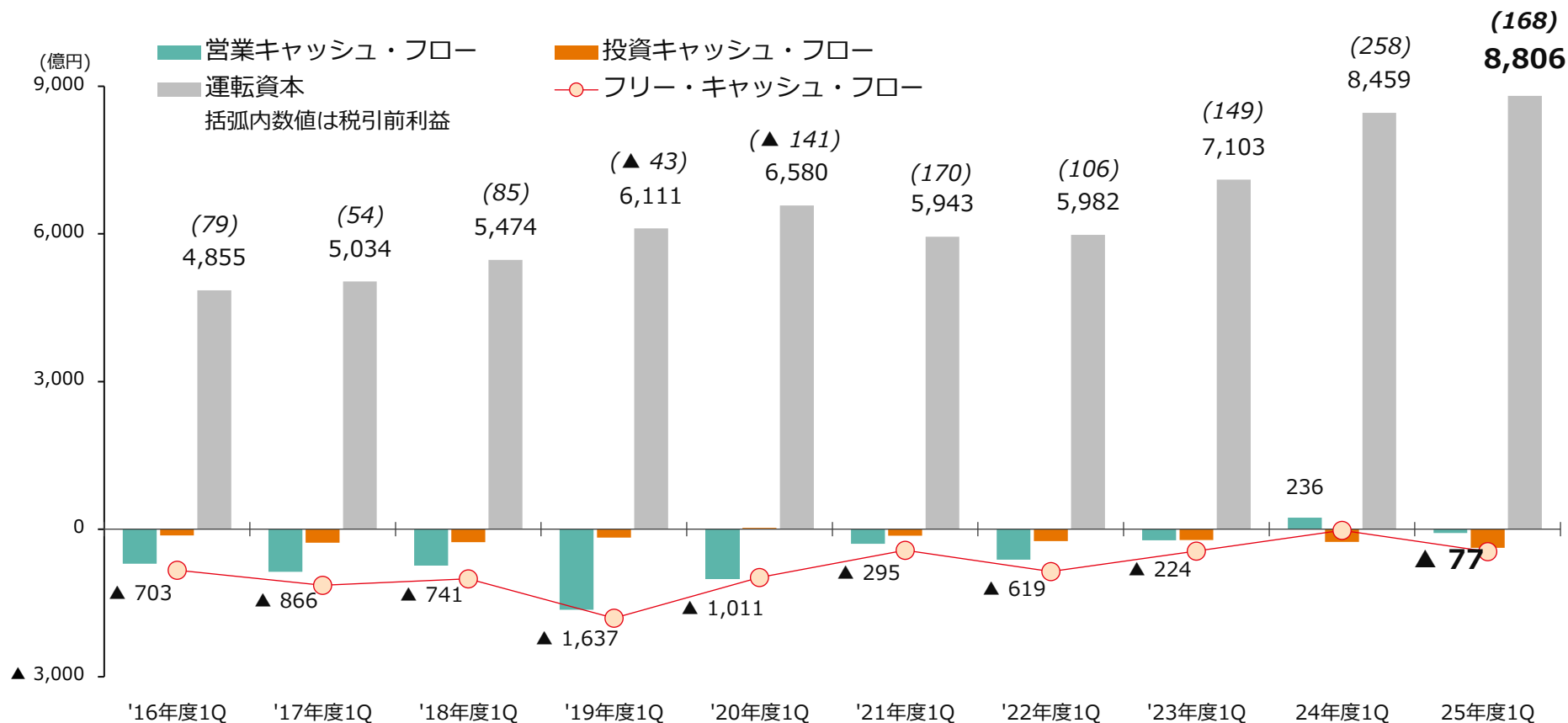
要因説明

① '24年度1Q：
航空宇宙システムやPS&Eで棚卸資産の増加はあったものの、航空宇宙事業での契約負債（前受金）の増加等があり、営業CFは税前利益並みの水準

'25年度1Q：
航空宇宙事業やプラント事業で売上債権の回収が進んだものの、法人所得税等の支払増加等があり、営業CFでは資金流出

② PS&Eの事業会社であるカワサキモータース(株)の株式20%を伊藤忠商事(株)に譲渡した対価800億円の一部を有利子負債返済に充当

- 過去3年間で運転資本が大きく増加するも、徐々にキャッシュへの貢献が顕在化
- 25年度1Qの営業CFは小幅な赤字も、改善傾向は変わらず



※ 運転資本 = 売掛債権 + 棚卸資産 + 前渡金 - 買掛債務 - 契約負債 (前受金)

2

2025年度業績予想

Forecasts for FY2025
(for the year ending March 31, 2026)

2 2025年度業績予想 - サマリー

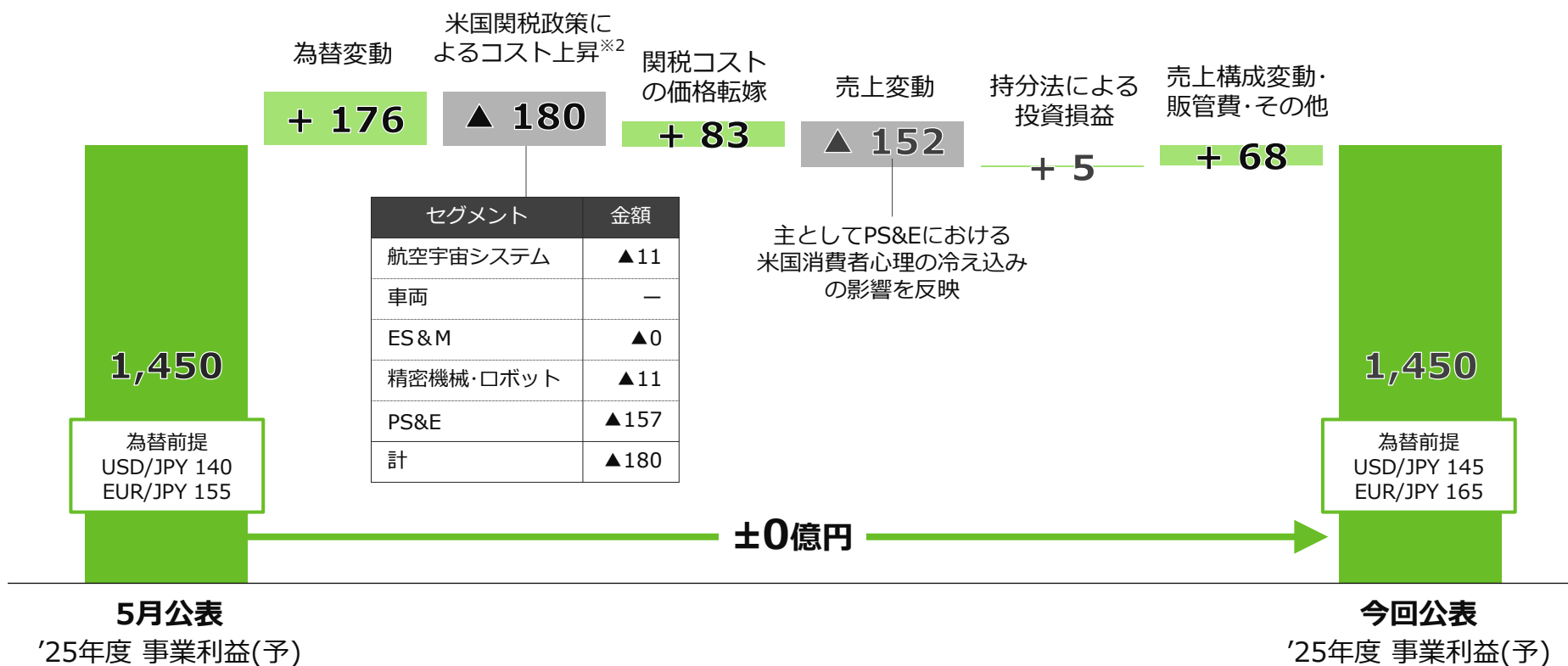
- ✓ 業績予想に米国関税政策の影響を反映
- ✓ 2Q以降の為替前提を145円に修正し、通期の利益予想は5月公表値から据え置き

(単位：億円)

	'24年度 実績	'25年度予想および進捗状況							
		従来予想	修正予想	前期比		従来予想比	1Q実績	2-4Q予想	
受注高	26,307	22,000	22,300	▲	4,007	+	300	4,463	17,837
売上収益	21,293	23,100	22,900	+	1,607	▲	200	4,884	18,016
事業利益	1,431	1,450	1,450	+	19	-	-	205	1,245
	[利益率]	[6.7%]	[6.3%]		[▲ 0.3pt]		[-]	[4.2%]	[6.9%]
税引前当期利益	1,075	1,150	1,150	+	75	-	-	168	982
	[利益率]	[5.0%]	[5.0%]		[-]		[-]	[3.4%]	[5.5%]
親会社の所有者に帰属する 当期利益	880	820	820	▲	60	-	-	42	778
	[利益率]	[4.1%]	[3.5%]		[▲ 0.5pt]		[-]	[0.9%]	[4.3%]
税後ROIC	8.0%	6.9%	6.9%	▲	1.1pt	-	-	-	-
売上加重平均レート(USD/JPY)	150.81	140.00	-		-	-	-	143.79	145.00
損益影響外貨量(億USD)※	19.4	25.0	24.8	+	5.4	▲	0.2	5.2	19.6

※ 為替変動に伴い事業利益に影響を与える外貨量であり、川崎重工業、川崎車両、カワサキモータースのドル建売上からドル建仕入を控除して算出（損失引当済み案件の外貨建売上を含む。但し、1Q実績にはPW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高を含まない）。当該数値のセグメント別内訳はP.51を参照

✓ 米国関税政策によるコスト上昇および市況悪化に伴う売上減少影響を
価格転嫁や固定費の低減、円安効果等でカバー



※1 増減要因の各数値は当社が一定の基準を定めて算出した概算値です。為替変動影響は、USDとEURを対象として算出しており、その他通貨の変動影響は「売上構成変動・販管費・その他」に含まれています

※2 前提となる米国相互関税率は、日本15%、タイ19%、インドネシア19%、台湾20%などです。なお、一時的に当社が関税等を負担する場合であっても、当該コストを契約等により取引先等に対して100%転嫁可能なものは集計から除外しています

2 2025年度業績予想 – セグメント別

- ✓ 航空宇宙システムとES&Mは為替前提変更および固定費低減等による採算性の改善により、上方修正 ①
- ✓ PS&Eは前年度のリコール影響や生産遅れからの回復はあるものの、米国関税政策の影響および米国消費者心理の冷え込みを織り込み、下方修正 ②

(単位：億円)

	受注高				売上収益				事業利益			
	'24年度 実績	'25年度予想			'24年度 実績	'25年度予想			'24年度 実績	'25年度予想		
		従来予想	修正予想	修正額		従来予想	修正予想	修正額		従来予想	修正予想	修正額
航空宇宙システム	8,828	6,400	6,900	+ 500	5,678	6,400	6,400	-	558	480	560	+ 80
車両	2,515	1,100	1,100	-	2,223	2,200	2,200	-	84	80	90	+ 10
I社グループソリューション&マリ	5,420	4,300	4,400	+ 100	3,981	4,400	4,500	+ 100	442	500	570	+ 70
精密機械・舶来品	2,492	2,600	2,700	+ 100	2,415	2,500	2,600	+ 100	70	130	140	+ 10
パワー・スポンツ&エンジン	6,116	6,600	6,200	▲ 400	6,093	6,600	6,200	▲ 400	478	480	300	▲ 180
その他	933	1,000	1,000	-	901	1,000	1,000	-	52	50	50	-
調整額※	-	-	-	-	-	-	-	-	▲ 256	▲ 270	▲ 260	+ 10
合計	26,307	22,000	22,300	+ 300	21,293	23,100	22,900	▲ 200	1,431	1,450	1,450	-

※「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

空白スライド

Intentionally blank slide

3

セグメント別詳細情報

Details by segment

2025年度1Q実績（前年同期比）

受注高 
+107 億円

防衛省向けや民間機向け航空エンジン
などが増加したことにより増加

売上収益 
▲33 億円

防衛省向けやボーイング向けが減少し
たことにより減収

事業利益 
▲40 億円

減収やエンジンMRO事業参入に伴う固
定費の増加、民間機向け航空エンジン
(新造)の台数増などにより減益

2025年度予想（従来予想比）

受注高 
+500 億円

防衛省向けの増加などにより、見通し
を引き上げ

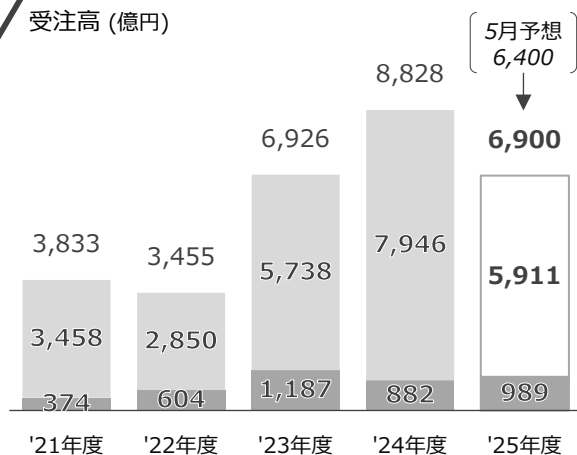
売上収益 
±0 億円

為替前提レートの変更はあるものの、
民間機向け航空エンジンの減少などによ
り、見通しを据え置き

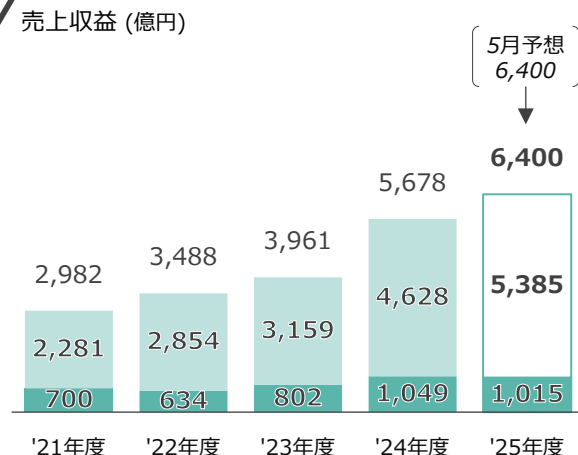
事業利益 
+80 億円

為替前提レートの変更や固定費の低減
などによる採算性の改善により、見通
しを引き上げ

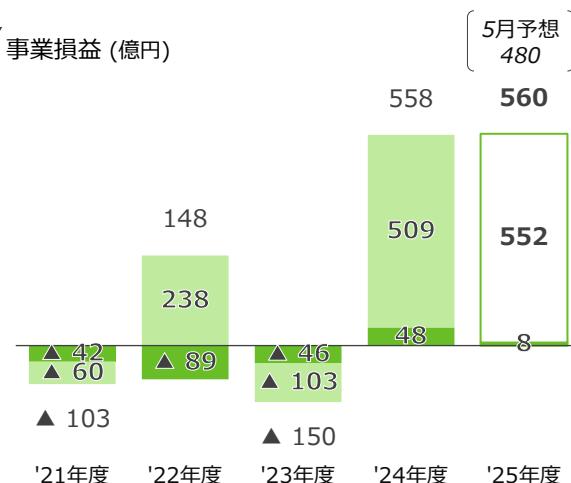
受注高 (億円)



売上収益 (億円)



事業損益 (億円)



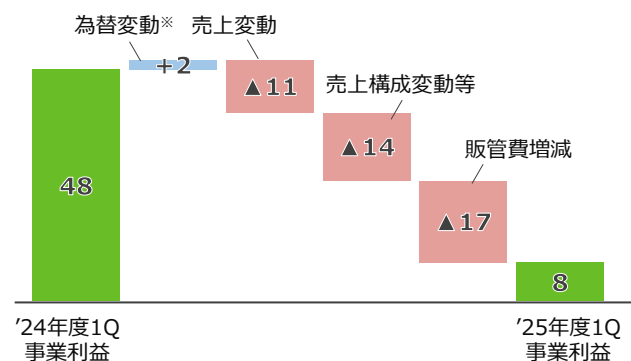
(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

(単位：億円)

	'24年度 1Q実績	'25年度		'24年度 通期	'25年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	882	989	+ 107	8,828	6,400	6,900	▲ 1,928	+ 500	5,911
うち 航空宇宙	543	651	+ 107	6,995	4,550	5,000	▲ 1,995	+ 450	4,349
航空エンジン	339	338	▲ 0	1,833	1,850	1,900	+ 67	+ 50	1,562
売上収益	1,049	1,015	▲ 33	5,678	6,400	6,400	+ 722	-	5,385
うち 航空宇宙	713	655	▲ 58	3,999	4,650	4,650	+ 651	-	3,995
航空エンジン	336	360	+ 24	1,678	1,750	1,750	+ 72	-	1,390
事業利益	48	8	▲ 40	558	480	560	+ 2	+ 80	552
	[利益率] [4.6%]	[0.8%]	[▲ 3.8pt]	[9.8%]	[7.5%]	[8.8%]	[▲ 1.0pt]	[+ 1.3pt]	[10.3%]

事業損益増減要因 (億円)



※ PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高の為替変動に伴う評価替え影響 (+52億円) を含む

補足情報

ボーイング向け航空機分担製造品の売上機数
(単位：機)

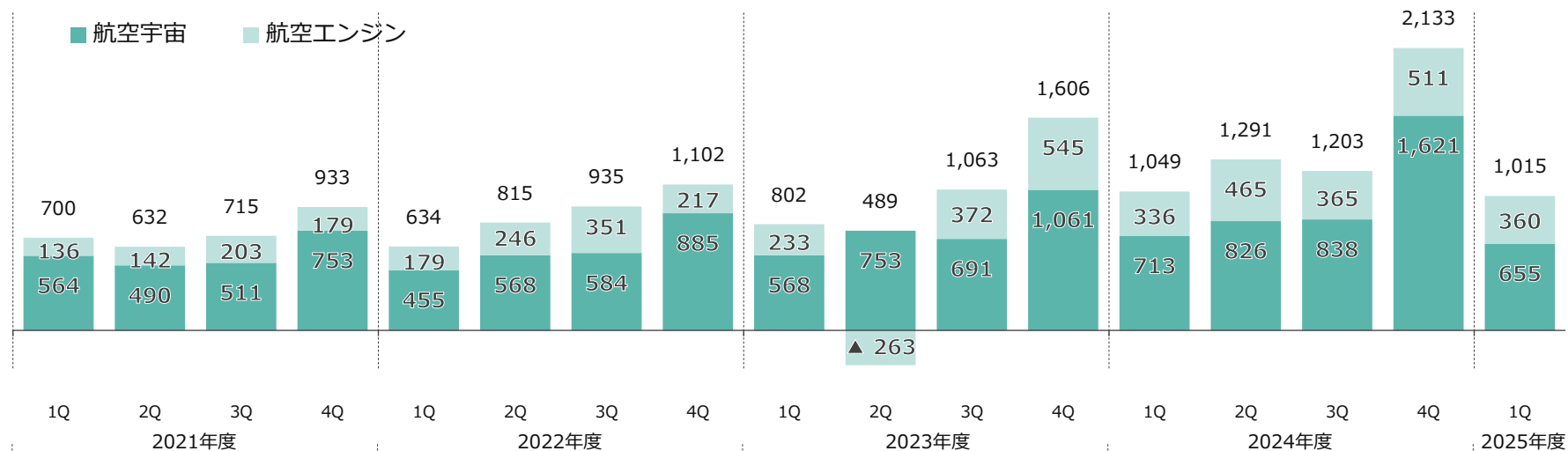
	'24年度		'25年度	1Q比 増減
	1Q	通期	1Q	
767	5	19	7	+ 2
777	5	19	4	▲ 1
777X	2	5	0	▲ 2
787	10	58	5	▲ 5

主要航空エンジン分担製造品の売上台数
(単位：台)

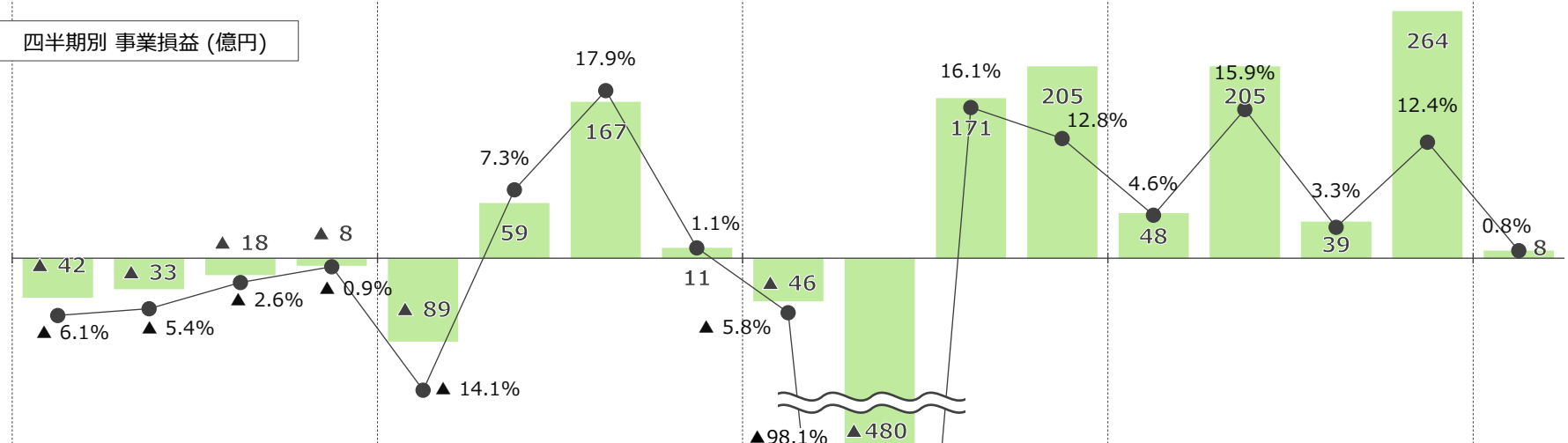
	'24年度		'25年度	1Q比 増減
	1Q	通期	1Q	
V2500	5	20	3	▲ 2
PW1100G	165	681	134	▲ 31

(注) Rolls-Royce向けエンジンは非公表

四半期別 売上収益 (億円)



四半期別 事業損益 (億円)



事業環境・受注動向

- 民間機向け
 - 航空旅客需要は回復から成長のフェーズに移行しており、機体・エンジンともに需要が増加
- 防衛省向け
 - 抜本的な防衛力強化という防衛省の方針のもと、需要増や採算性の改善が期待できる

(補足)

当社がIAE社※1を通じて参画している
PW1100G-JMエンジンプログラムについて

- ✦ 同エンジンには運航上の重要な問題が発生しており、本問題を解消するため、2024年から数年間にわたって多数の同エンジンが検査・整備のため機体 (A320neo) から取り下ろされる
- ✦ エンジンの取り下ろしから取り付けには250～300日を必要とするため、多くの機体が地上駐機状態となる
- ✦ '23年度に本件に係る将来にわたる損失見込み額を一括計上※2しており、現時点で損失見込み額に変更なし※3
- ✦ 本件に関する当社のプレスリリース
https://www.khi.co.jp/pressrelease/news_230912-2.pdf
https://www.khi.co.jp/ir/pdf/etc_231026-1j.pdf

※1 International Aero Engines, LLC

※2 2023年度7-9月期に事業損益段階で▲580億円の損失を計上

※3 為替変動に伴う評価替の影響を除く

重点施策と具体的な取り組み



事業の拡大に向けた体制整備

- 旺盛な需要に対応するサプライチェーンおよび増産体制の再整備
- 新たな事業機会獲得に向けた業務効率化と生産性の向上
- 防衛航空機・ヘリコプタの開発推進ならびに量産契約の着実な履行



ヘリ手配サービス「Z-Leg」
防災イベント出展
(4/26-27、神戸市)



防衛事業にかかる活動強化

- 防衛力強化に向けた7つの重視分野への取り組み推進

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 統合防空ミサイル防衛能力 | 5 機動展開能力 |
| 2 スタンド・オフ防衛能力 | 6 持続性・強靱性 |
| 3 領域横断作戦能力 | 7 無人アセット防衛能力 |
| 4 指揮統制・情報関連機能 | |



スタンド・オフ電子戦機
(出典:防衛省ウェブサイト)

試作その3契約
2026年度履行完了予定



KJ300
ターボファンエンジン



市場動向を踏まえた技術戦略の推進

- 防衛力強化の実現に向けた民生技術の活用を含む技術開発の促進
- NEDOグリーンイノベーション基金活用による脱炭素社会に向けた環境技術開発の推進

3 セグメント別詳細情報 - 車両

2025年度1Q実績（前年同期比）

受注高  国内向け大口案件の受注があった前年同期に比べ減少
▲22 億円

売上収益  国内向けや米国向けが増加したことにより増収
+114 億円

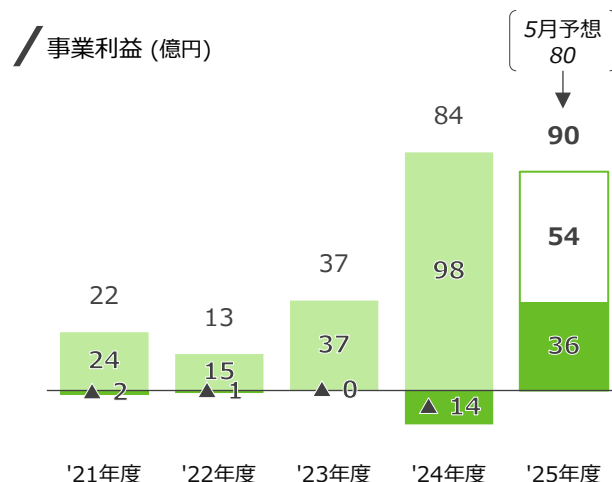
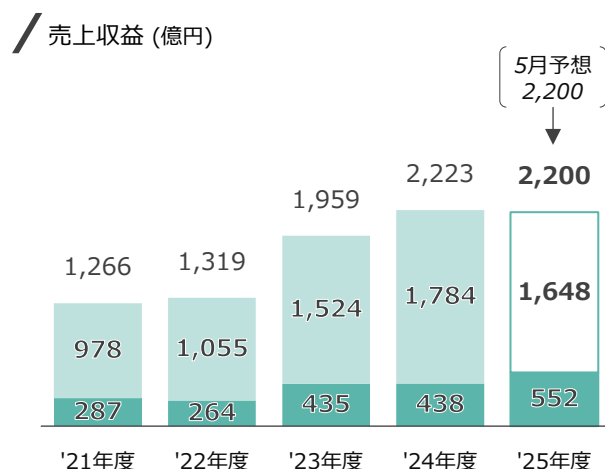
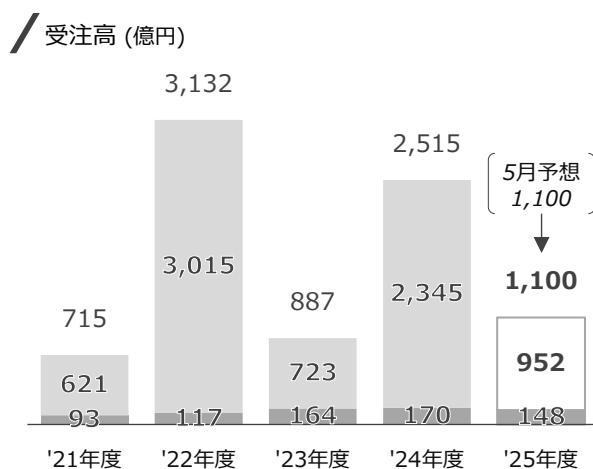
事業利益  増収などにより増益
+51 億円

2025年度予想（従来予想比）

受注高  大きな変動はなく、見通しを据え置き
±0 億円

売上収益  同 上
±0 億円

事業利益  固定費の低減などによる採算性の改善により、見通しを引き上げ
+10 億円



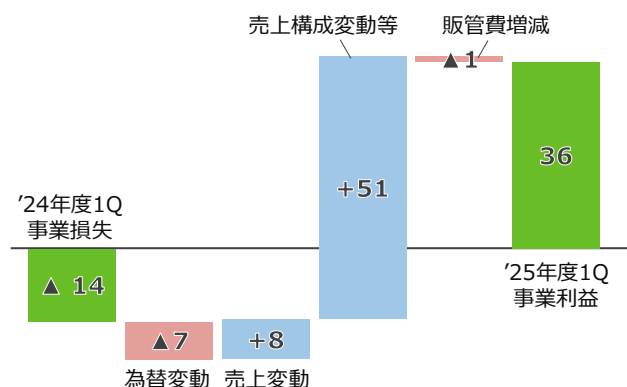
(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

3 セグメント別詳細情報 - 車両

(単位：億円)

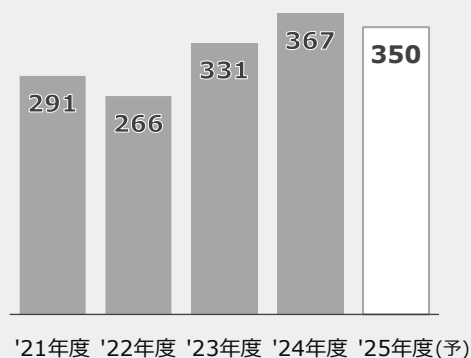
	'24年度 1Q実績	'25年度		'24年度 通期	'25年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	170	148	▲ 22	2,515	1,100	1,100	▲ 1,415	-	952
うち 国内・アジア	151	134	▲ 17	2,515	1,030	1,030	▲ 1,485	-	896
北米	19	14	▲ 5	0	70	70	+ 70	-	56
売上収益	438	552	+ 114	2,223	2,200	2,200	▲ 23	-	1,648
うち 国内・アジア	94	176	+ 82	2,223	780	780	▲ 1,443	-	604
北米	343	375	+ 32	0	1,420	1,420	+ 1,420	-	1,045
事業損益	▲ 14	36	+ 51	84	80	90	+ 6	+ 10	54
	[利益率] [▲ 3.4%]	[6.6%]	[+ 9.9pt]	[3.8%]	[3.6%]	[4.1%]	[+ 0.3pt]	[+ 0.4pt]	[3.3%]

事業損益増減要因 (億円)



補足情報

部品・改造・アフター関連売上(単位：億円)

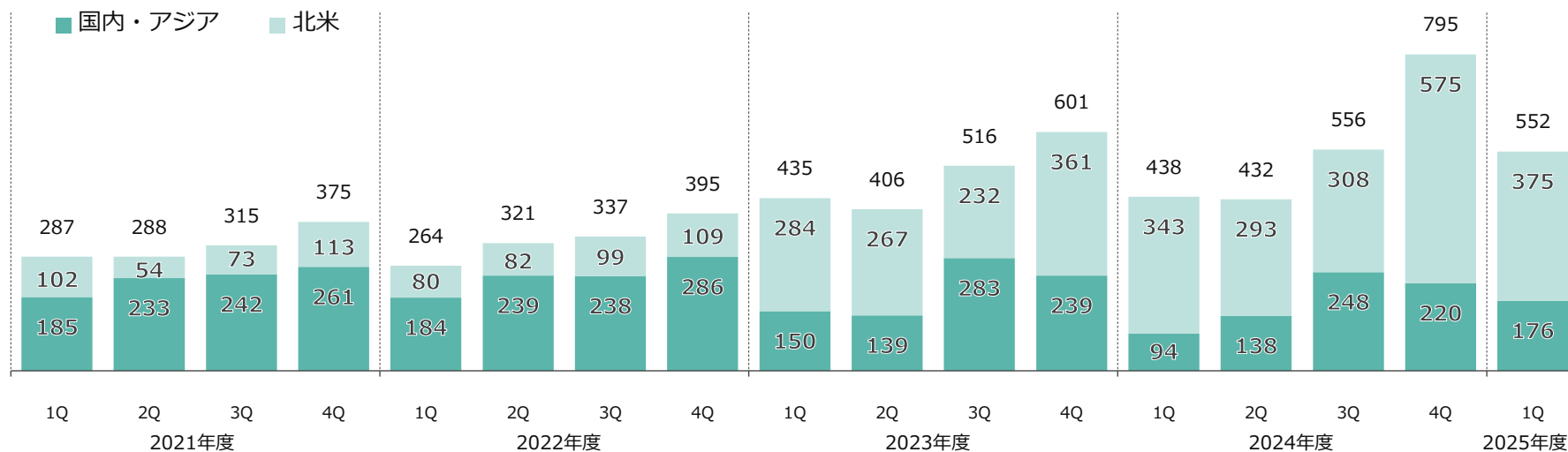


米国ニューヨーク地下鉄向け
R211プロジェクトの進捗状況 ('25年6月末)

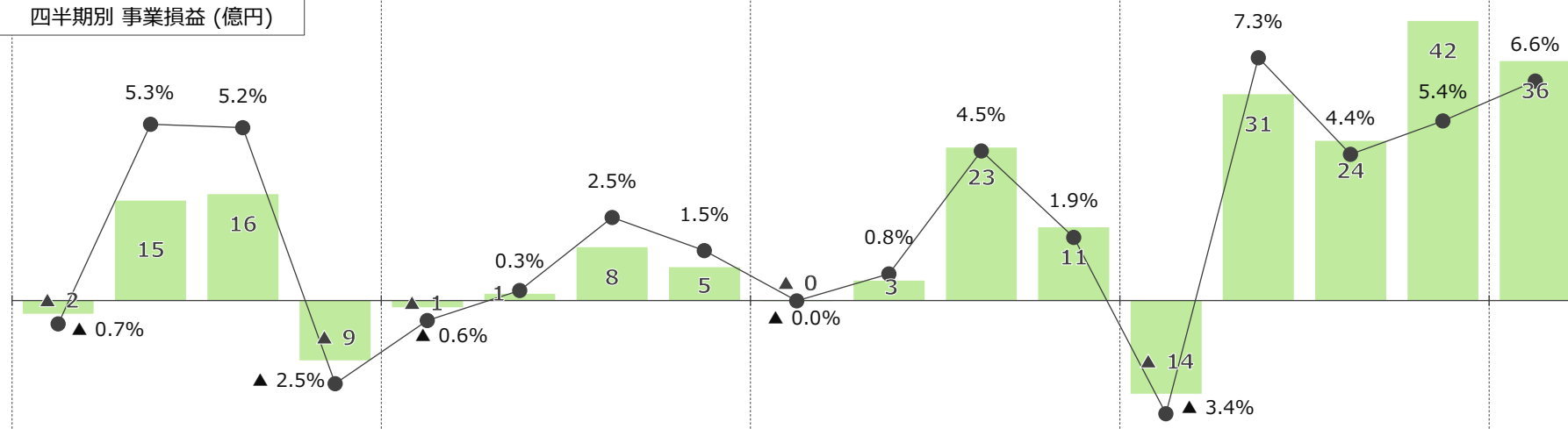
- Base契約車両全535両のうち、**515両**を引渡し済み
Base契約最終車両引渡しは2025年度中を予定
- Option1契約車両640両のうち、**70両**を引き渡し済み
- Option2契約車両435両は25年1月に受注済み

3 セグメント別詳細情報 - 車両

四半期別 売上収益 (億円)



四半期別 事業損益 (億円)



3 セグメント別詳細情報 - 車両

事業環境・受注動向

- 国内市場
 - インバウンドの復調等により鉄道車両への投資が再開
- 海外市場
 - 大都市における混雑緩和対策のための都市交通整備などに伴い需要が見込まれる
- サプライチェーンリスク
 - 電子部品を中心とした機器調達の長期化に注視が必要
- 中長期展望
 - 海外市場における交通整備、アジア諸国の経済発展に伴う鉄道インフラニーズなど、今後も世界的に安定した成長が見込まれる



ニューヨーク市交通局
(MTA New York City Transit)向け
R211地下鉄車両

重点施策と具体的な取り組み



海外案件の納入スケジュール遵守

- 主要案件のマイルストーン（米国向けR211を除く）

案件	ステータス	マイルストーン
ダッカ 6号線	▶ 完納（全24編成144両を顧客に引渡し済）	最終車両引渡し 2024年度4Q完了 基地設備引渡し 2025年度



顧客に信頼される品質レベルの達成

- 仕損じ、手直し費用の削減
- 国内外の各生産拠点でのKPS (Kawasaki Production System)による生産管理の継続



ダッカ都市交通会社
(Dhaka Mass Transit
Company Limited) 向け
都市高速鉄道車両



部品・サービスの拡販、保守分野の事業拡大

- 北米向け軌道遠隔監視装置の拡販
- 国内鉄道事業者への車両状態監視装置の拡販

2025年度1Q実績（前年同期比）

受注高



▲352 億円

発電所向け搬送設備の受注などがあつたものの、LPG/アンモニア運搬船を複数隻受注した前年同期に比べ減少

売上収益



+165 億円

エネルギー事業や船舶海洋事業など各分野での増収により増収

事業利益



+37 億円

増収などにより増益

2025年度予想（従来予想比）

受注高



+100 億円

発電設備の増加などにより、見通しを引き上げ

売上収益



+100 億円

防衛省向けの増加などにより、見通しを引き上げ

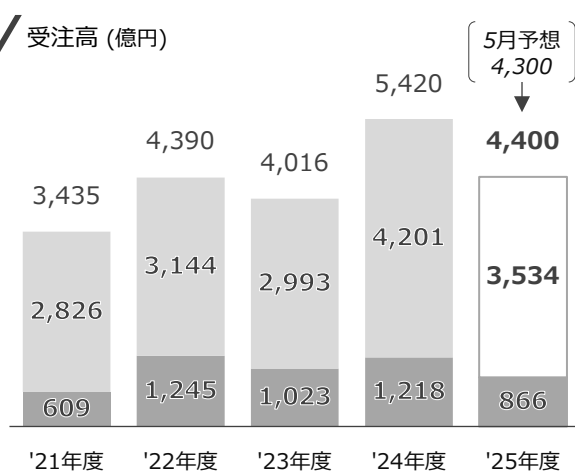
事業利益



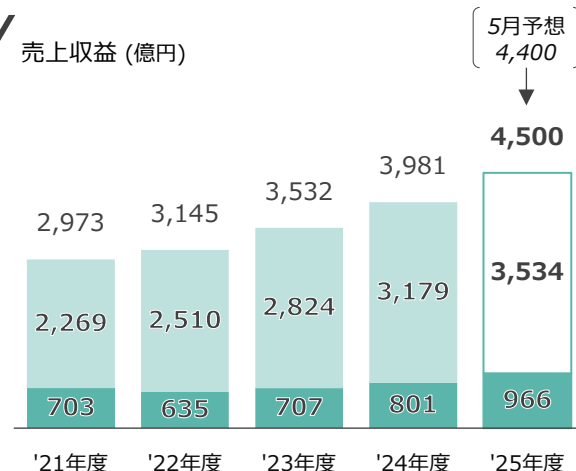
+70 億円

個別案件の採算性の改善や固定費の低減などにより、見通しを引き上げ

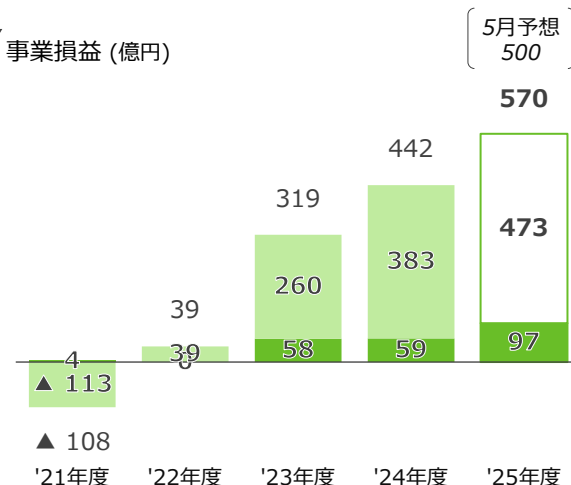
受注高（億円）



売上収益（億円）



事業損益（億円）

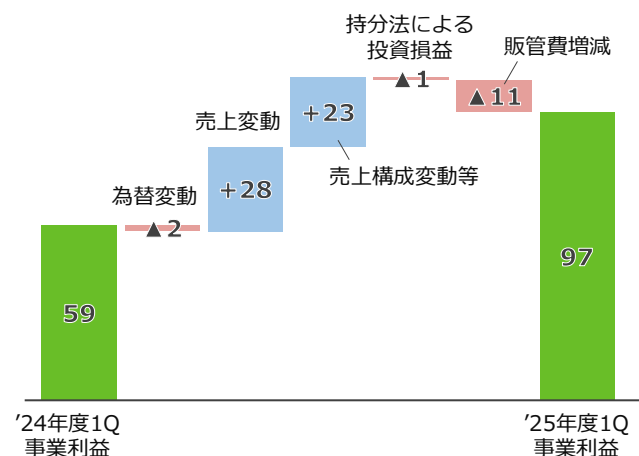


（注）グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

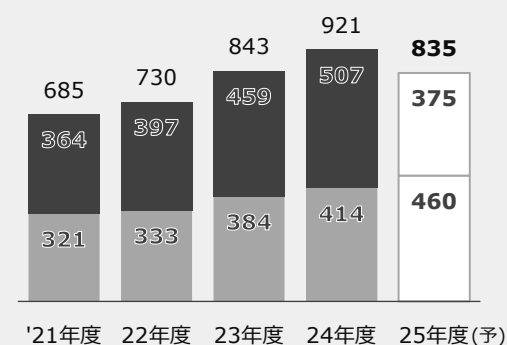
(単位：億円)

	'24年度 1Q実績	'25年度		'24年度 通期	'25年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	1,218	866	▲ 352	5,420	4,300	4,400	▲ 1,020	+ 100	3,534
うち IHCパワー・プラント・船用推進	565	815	+ 250	3,544	3,300	3,400	▲ 144	+ 100	2,585
船舶海洋	653	51	▲ 602	1,876	1,000	1,000	▲ 876	-	949
売上収益	801	966	+ 165	3,981	4,400	4,500	+ 519	+ 100	3,534
うち IHCパワー・プラント・船用推進	548	654	+ 106	3,068	3,200	3,300	+ 232	+ 100	2,646
船舶海洋	253	312	+ 58	912	1,200	1,200	+ 288	-	888
事業利益	59	97	+ 37	442	500	570	+ 128	+ 70	473
[利益率]	[7.5%]	[10.1%]	[+ 2.6pt]	[11.1%]	[11.4%]	[12.7%]	[+ 1.5pt]	[+ 1.3pt]	[13.4%]
うち 持分法投資利益	62	61	▲ 1	229	245	250	+ 21	+ 5	189

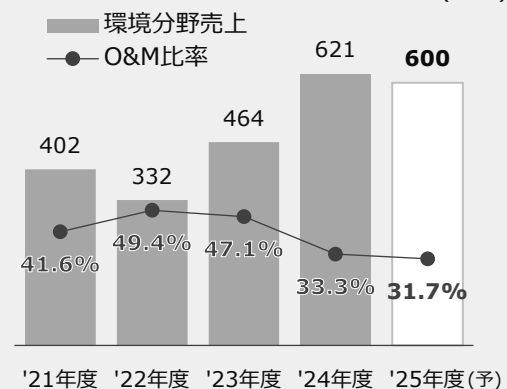
事業損益増減要因 (億円)



補足情報

エネルギー事業における主要製品の売上 (億円)
(上段：機器関連 下段：アフターサービス)

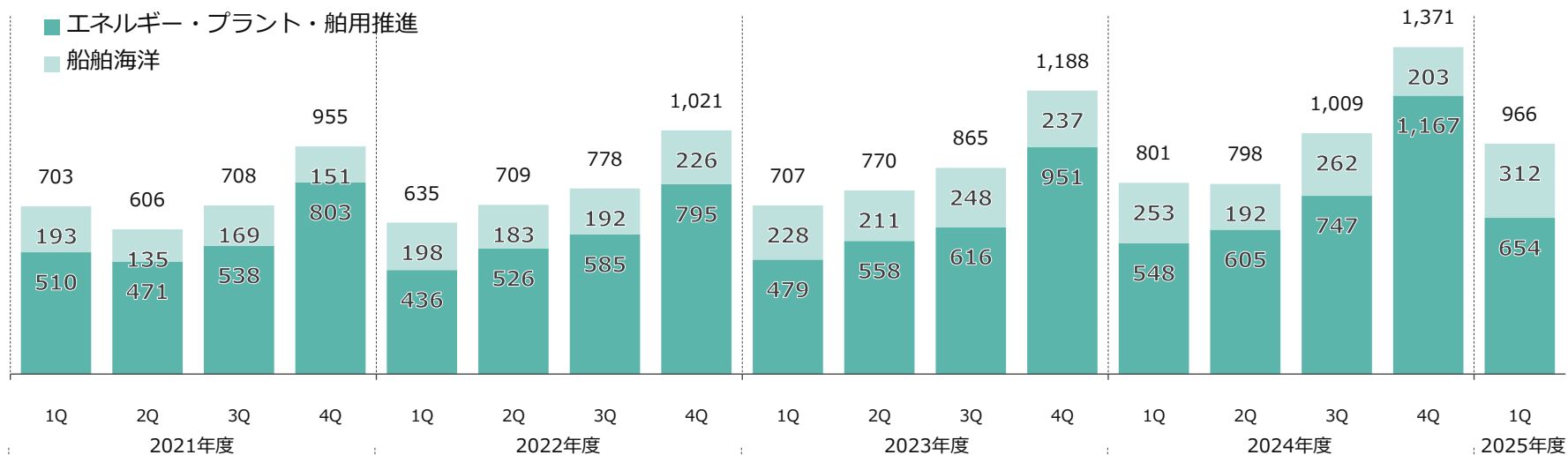
プラント事業における環境分野の売上 (億円)



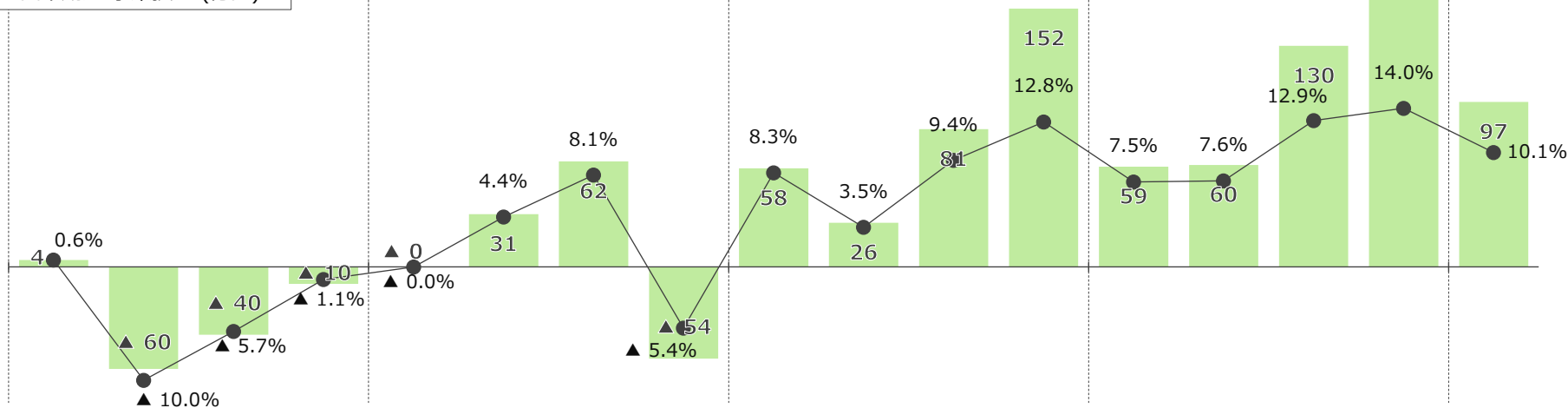
3

セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

四半期別 売上収益 (億円)



四半期別 事業損益 (億円)



3 セグメント別詳細情報 – エネルギーソリューション&マリン

事業環境・受注動向

● エネルギー・プラント・船用推進

国内	海外
- 非常用を中心にデータセンターの電源需要増加 - ごみ焼却設備の老朽化更新需要の継続	- 新興国では石炭から天然ガスへの燃転、先進国では水素関連の受注・引合いが増加

● 船舶海洋

商船	艦艇・特殊船
- 造船各社は当面の船台を埋めており、商談は先物納期が中心 - 建造コストの上昇や船台需給ひっ迫により船価は高値継続傾向	潜水艦は安定的な受注

● セグメント全体

リスク	カーボンニュートラル
- 米国関税政策の影響による物流・為替動向 - 原材料価格や資機材・燃料費、人件費の継続的な上昇等	LNG回帰に伴うトランジションソリューションや、KCC※などの脱炭素ソリューションに関する問い合わせや協力要請が増加

※ Kawasaki CO₂ Capture : CO₂分離・回収システム

重点施策と具体的な取り組み

✓ 低炭素・脱炭素社会の実現に貢献する製品・サービスの提供

事例	水素混焼仕様への改造が可能なガスエンジン2基を受注
----	---------------------------

受注 Point	✓ クラス世界最高の発電効率51.0% ✓ 改造工事により、体積比30%まで任意の割合で水素を都市ガスと混焼が可能 ✓ 長年にわたる安定稼働の実績による高い信頼性 ✓ 充実したアフターサービスの提供
----------	--



ガスエンジン「KG-18-T」

▶ お客様から高い信頼・評価を獲得

✓ 脱炭素社会の実現に向けた取り組み

事例	液化水素サプライチェーン構築に向けた商用化実証における国内基地 建設工事着工
----	--

- 以下5つの重要設備を備えた**世界初**の商用規模施設であり、水素サプライチェーンの社会実装に向けた重要拠点

液化水素貯蔵タンク	海上荷役設備	液化水素ローリー出荷設備
水素送ガス設備	水素液化設備	



施設完成イメージ図
提供：日本水素エネルギー㈱

2025年度1Q実績（前年同期比）

受注高 
+22 億円

中国建設機械市場向け油圧機器の増加などにより増加

売上収益 
+42 億円

中国建設機械市場向け油圧機器や半導体製造装置向けロボットの増加などにより増収

事業利益 
+24 億円

増収や持分法損益の改善などにより改善

2025年度予想（従来予想比）

受注高 
+100 億円

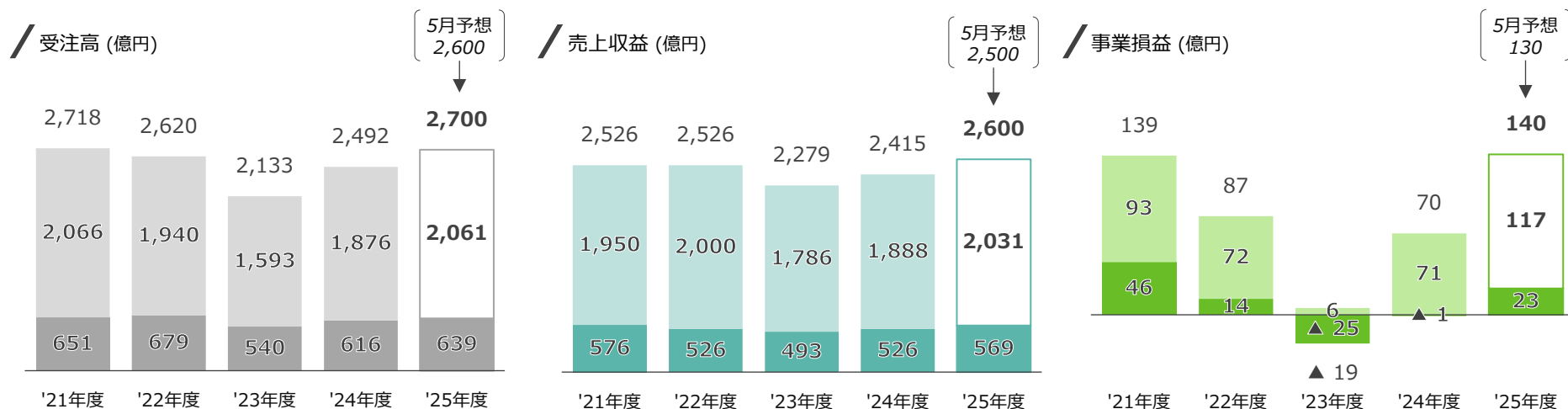
中国建設機械市場向け油圧機器の増加などにより、見通しを引き上げ

売上収益 
+100 億円

同上

事業利益 
+10 億円

増収や固定費の低減などにより、見通しを引き上げ

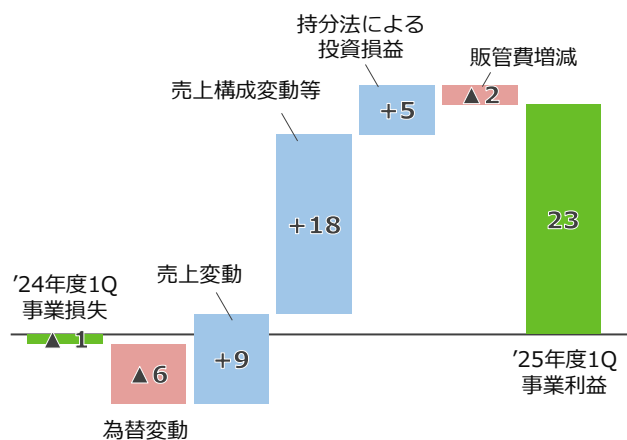


(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

(単位：億円)

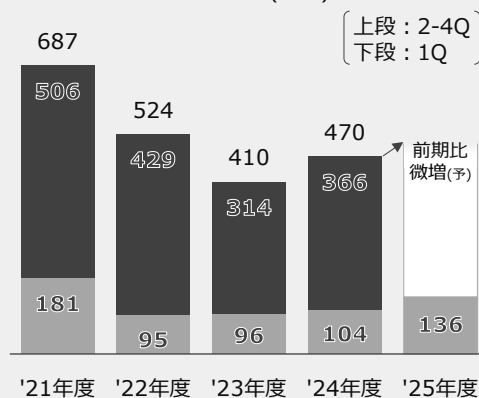
	'24年度 1Q実績	'25年度		'24年度 通期	'25年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	616	639	+ 22	2,492	2,600	2,700	+ 208	+ 100	2,061
うち 油圧機器	360	436	+ 76	1,475	1,600	1,700	+ 225	+ 100	1,264
ロボット	256	202	▲ 53	1,017	1,000	1,000	▲ 17	-	798
売上収益	526	569	+ 42	2,415	2,500	2,600	+ 185	+ 100	2,031
うち 油圧機器	355	389	+ 33	1,468	1,500	1,600	+ 132	+ 100	1,211
ロボット	170	179	+ 9	946	1,000	1,000	+ 54	-	821
事業損益	▲ 1	23	+ 24	70	130	140	+ 70	+ 10	117
[利益率]	[▲ 0.3%]	[4.1%]	[+ 4.3pt]	[2.9%]	[5.2%]	[5.4%]	[+ 2.4pt]	[+ 0.2pt]	[5.8%]
うち 持分法投資損益	▲ 4	1	+ 5	▲ 15	0	0	+ 15	-	▲ 1

事業損益増減要因 (億円)



補足情報

中国向け油圧機器売上 (億円)

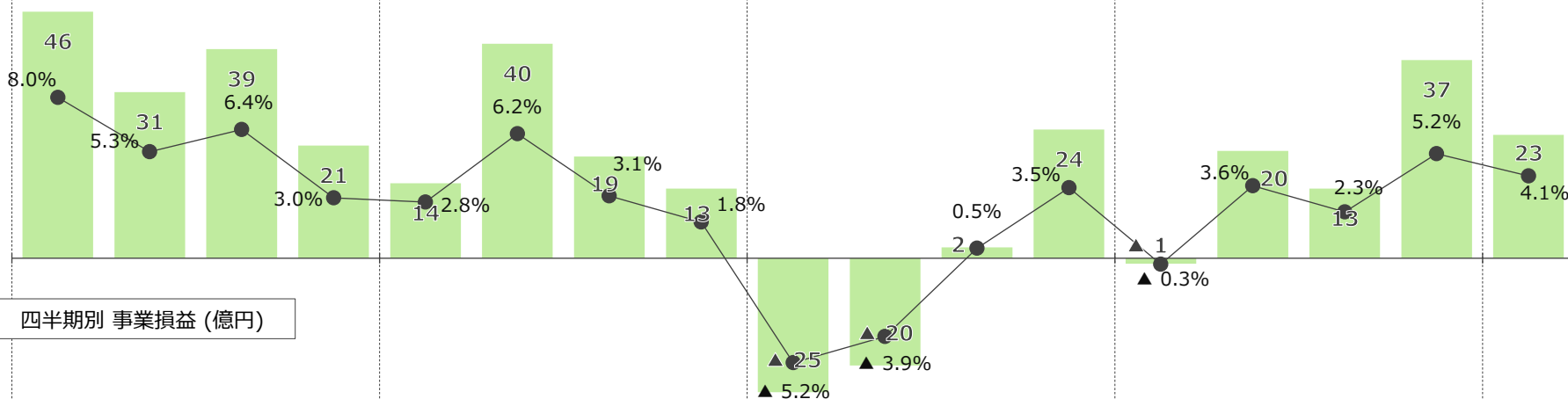
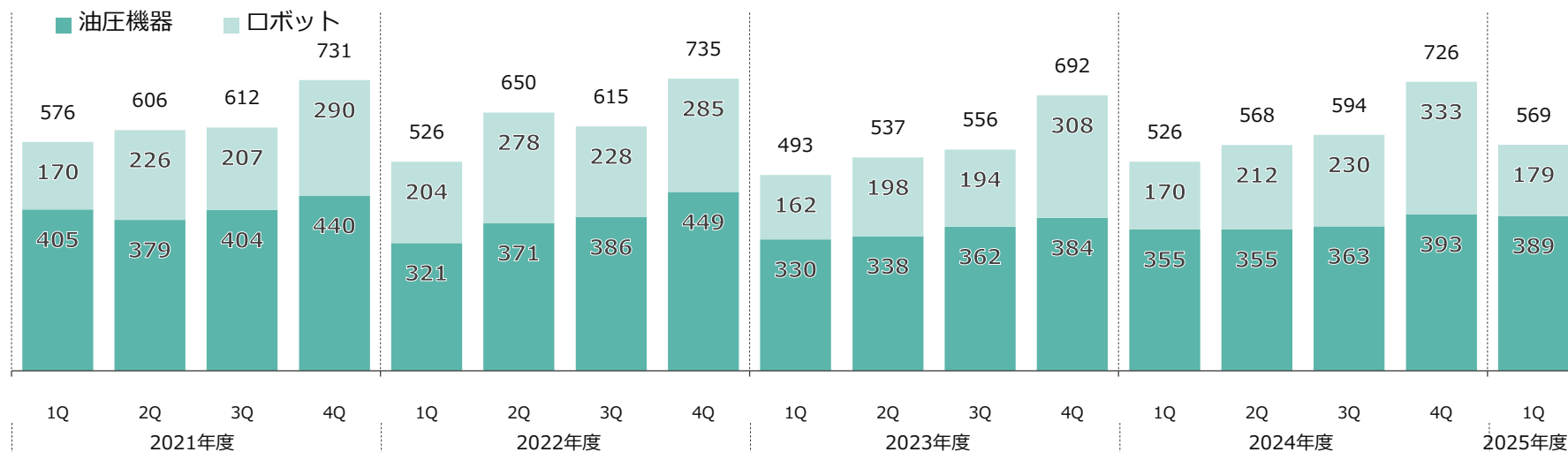


ロボット分野別売上※ (単位：億円)

	'24年度	'25年度	増減
車体組立・塗装	57 418	58 (予) 400	+ 1 ▲ 18
半導体	74 348	90 (予) 380	+ 15 + 32
一般産機・その他	52 274	51 (予) 320	▲ 1 + 46
合計	184 1,041	199 (予) 1,100	+ 15 + 59

※ 本表数値はセグメント間売上を含む

四半期別 売上収益 (億円)



四半期別 事業損益 (億円)

事業環境・受注動向

● 油圧機器

- 中国建設機械市場

不動産不況の長期化等により需要が低迷していたものの、内需・輸出ともに回復（特に鉱山用の大型機向けやアフリカへの輸出機向けの注文数が増加）

- 中国以外の地域における建設機械市場

欧州市場の停滞は底を打ち回復傾向

- 建設機械分野は今後、環境規制を背景とした電動化と、建設現場の熟練労働者不足に起因する自動化・自律化が進む

● ロボット

- 汎用ロボット

米国関税政策や中国の景気低迷に伴い需要は依然低調も、人件費上昇や労働力不足を背景として自動化需要は確実に高まっている

- 半導体製造装置向けロボット

半導体メモリ市場の需要低下が底を打ち、AI関連等の新たな成長を取り込みつつ、2024年度後半から需要は回復傾向



hinotoriの特集を
P.44のプロジェクト
トピックスに掲載

※ hinotoriは(株)メディカロイド
の商標です

Pickup!!

重点施策と具体的な取り組み



油圧事業の発展に向けた施策

建機向け新製品開発/市場開拓

- 高い制御技術・開発力で電動化・自動化に対応し、市場を開拓



アフターセールス事業の強化

- 過去の販売実績を活かしたアフターセールスの拡大と販売ネットワーク構築・拡大

水素関連事業/防衛事業の強化

- 水素圧縮機、燃料電池システムなどの開発
- 当社グループ内向け防衛関連製品の拡充



ロボット事業の戦略的挑戦

高付加価値領域への集中投資

- 半導体市場の本格的回復に備えた供給体制整備
- 新分野（真空/後工程・EFEM・工場自動化etc.）の拡大

ブランド力の強化

- オープン戦略の推進と協業・共創の拡大
- ソーシャルロボット分野の事業化推進

医療向け事業の強化

- 手術支援ロボット hinotoriTM※の普及（メディカロイド社、シスメックス社と共同）
- 遠隔操作技術等による差別化

2025年度1Q実績（前年同期比）

売上収益 
+155 億円

為替レートが円高に推移した影響はあるものの、北米向け四輪車の増加などにより増収

事業利益 
▲34 億円

増収はあるものの、為替レートが円高に推移した影響や増産投資に伴う固定費の増加などにより減益

2025年度予想（従来予想比）

売上収益 
▲400 億円

為替前提レートの変更はあるものの、米国パワースポーツ市場の需要減退などにより、見通しを引き下げ

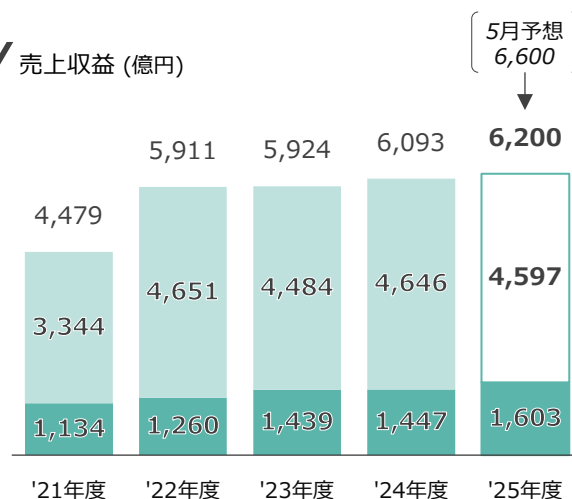
事業利益 
▲180 億円

減収や米国関税政策影響による採算性の悪化などにより、見通しを引き下げ

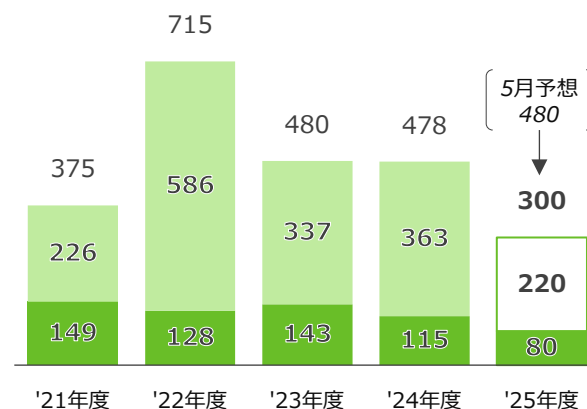
受注高（億円）

本セグメントは主として見込み生産を行っていることから、受注高については売上収益と原則同額としているため、定性情報およびグラフの掲載を省略しています

売上収益（億円）



事業利益（億円）



(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

3

セグメント別詳細情報 - パワースポーツ&エンジン

(単位：億円)

	'24年度 1Q実績	'25年度		'24年度 通期	'25年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
売上収益	1,447	1,603	+ 155	6,093	6,600	6,200	+ 107	▲ 400	4,597
うち 先進国二輪車	611	643	+ 32	2,453	2,430	2,250	▲ 203	▲ 180	1,607
新興国二輪車	234	248	+ 13	992	970	950	▲ 42	▲ 20	702
四輪車・PWC	347	461	+ 114	1,690	2,270	2,050	+ 360	▲ 220	1,589
汎用エンジン	254	249	▲ 4	955	930	950	▲ 5	+ 20	701
事業利益	115	80	▲ 34	478	480	300	▲ 178	▲ 180	220
	[利益率] [8.0%]	[5.0%]	[▲ 2.9pt]	[7.9%]	[7.3%]	[4.8%]	[▲ 3.0pt]	[▲ 2.4pt]	[4.8%]

補足情報

地域別販売台数（卸売）

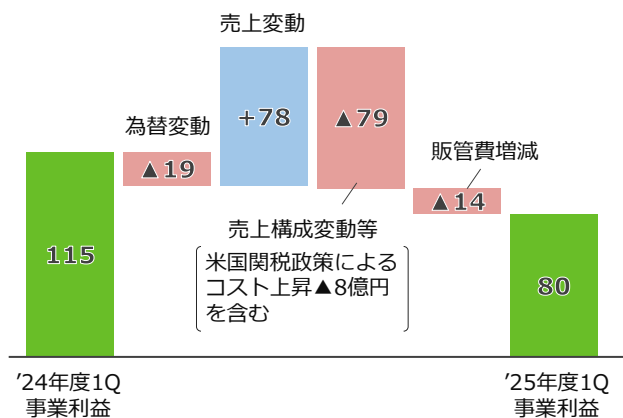
(単位：千台)

		'24年度1Q	'25年度1Q	増減	'25年度(予)
先進国二輪車	日本	6	10	+ 3	
	北米	23	23	+ 0	
	欧州	21	22	+ 0	
	その他※	1	2	+ 0	
小計		53	59	+ 5	230
新興国二輪車	フィリピン	47	46	▲ 0	
	インドネシア	7	3	▲ 3	
	中南米	2	4	+ 1	
	その他※	6	8	+ 2	
	小計	63	63	▲ 0	255
四輪車・PWC	北米ほか	11	19	+ 7	80

(※) 先進国二輪車および新興国二輪車の「その他」に含まれる国または地域における前年同期比増減トレンドは以下のとおり

豪州： ➡
中国： ➡
タイ： ➡

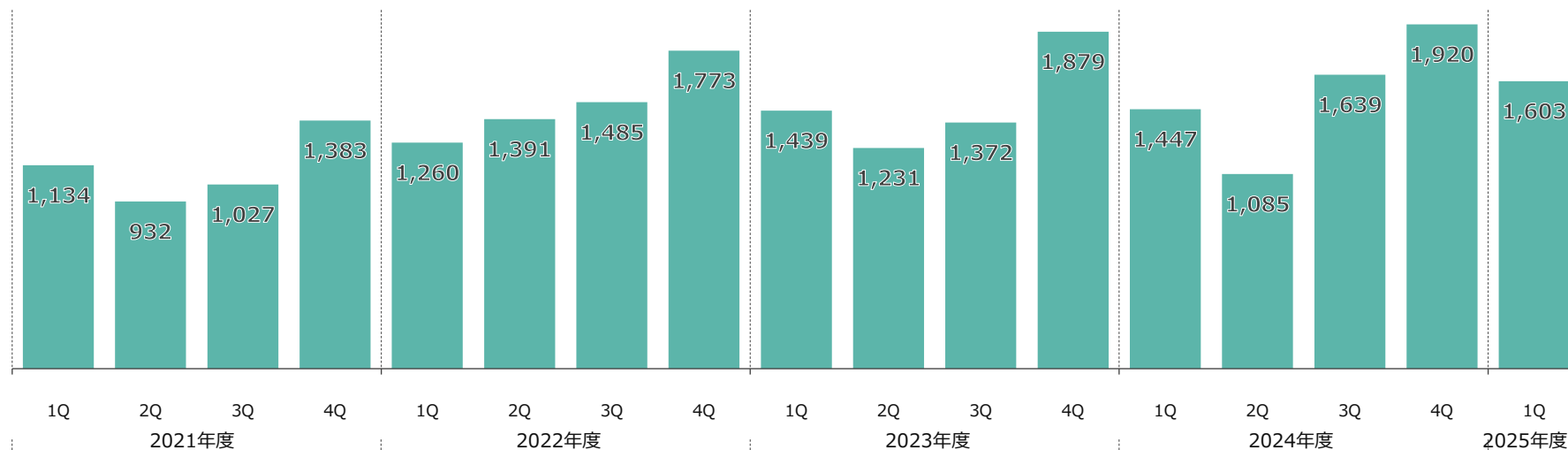
事業利益増減要因（億円）



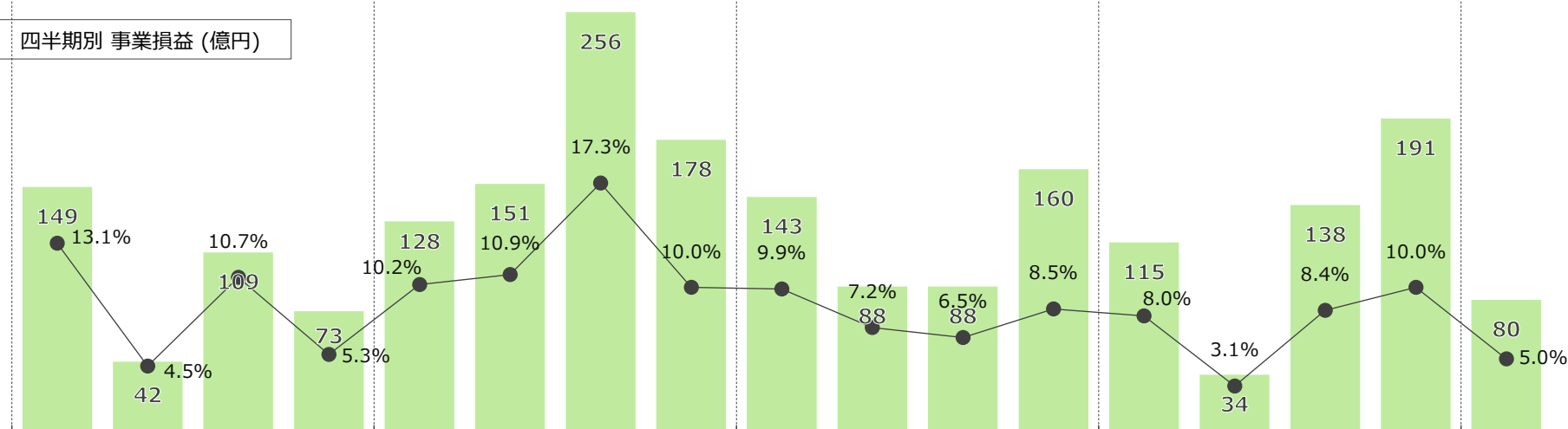
3

セグメント別詳細情報 - パワースポーツ&エンジン

四半期別 売上収益 (億円)



四半期別 事業損益 (億円)



事業環境・受注動向

- 米国（二輪）
 - 小売市場は軟化傾向にあるなか、当社は高いシェアを維持
- 米国（四輪）
 - 中長期的には市場成長を見込むものの、足元はローン金利や燃料価格上昇の影響を受けやすいレクリエーションモデルの販売が軟化
 - 当社は新機種投入効果やリコール影響の回復に伴いシェアを拡大
- 米国（共通）
 - 追加関税措置が及ぼす需要減退影響等が懸念される
- 欧州
 - 新排ガス規制試行前の駆け込み販売の反動により小売市場は一時的な減少に転じるなか、当社は販促策強化や新機種効果に伴いシェアを拡大
- 東南アジア
 - 一部地域で増加傾向が見られるも、依然としてスポーツセグメントは低水準で推移

重点施策と具体的な取り組み



市場動向に応じた製品の供給

- 継続的な新機種の投入
- 販売状況に基づき生産・販売計画を機動的に変更、製品の安定供給を実現



オフロード四輪車として当社初過給機エンジン搭載の「TERYX4 H2/TERYX5 H2」発売



四輪ビジネスの拡大、脱炭素・電動化対応

- 製品競争力強化に向けた開発投資
- 北米2工場（アメリカ/メキシコ）の効果的かつ柔軟な活用により外部環境の変化に迅速に対応
- 当社初となる電動四輪車の上市
- 電動化を軸に幅広い選択肢を活用しカーボンニュートラル社会実現に寄与



カワサキ初の電動四輪車「NAV」シリーズを発売



DXを通じた業務改革の推進

- デジタル化によるアジャイルな経営の実現
- デジタル技術活用による開発期間の短縮と効率化



キャッシュフローの改善

- 収益力強化と適正な在庫水準の維持によるフリーキャッシュフロー改善

4

株主還元、その他

Shareholder Returns and other information

配当政策

中長期的な
連結配当性向の基準 **30%**

考慮

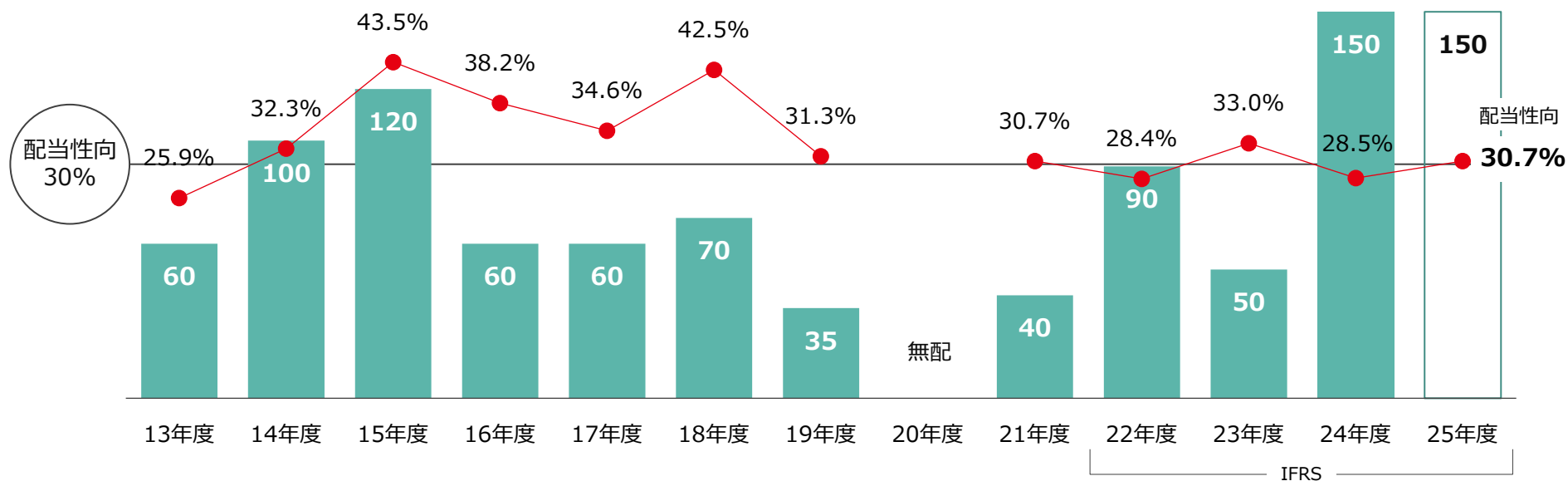
1 総合的に勘案

将来の業績見通し
FCFやD/Eレシオ等の
財務状況

2 安定的な配当

2025年度配当

1株当たり年間配当 **150円**（配当性向30.7%）
予定を据え置く



4 プロジェクトトピックス

液化水素サプライチェーン構築に向け着実に前進！

— 「なかま」とともに築く水素社会 —

液化水素サプライチェーン商用化実証で使用する 国内基地の建設工事に着工



施設完成イメージ図
提供：日本水素エネルギー(株)

’25年5月 当社、大成建設(株)、東亜建設工業(株)の3社で形成される共同企業体が、日本水素エネルギー(株)からの発注を受け、国際水素サプライチェーン国内基地の建設工事に着工(於 川崎市扇島東部)
この基地は、液化水素貯蔵タンク、海上荷役設備、水素液化設備、水素送ガス設備、液化水素ローリー出荷設備を備えた、世界初の商用規模の施設



液化水素運搬船の建造体制構築に向け、 国内造船各社で共同検討を開始



’25年6月 当社、今治造船(株)、ジャパン マリンユナイテッド(株)は、当社が設計・建造する液化水素運搬船の後続船に関する建造体制の構築に向けた共同検討を開始
各社が有する液化水素運搬船建造に必要な設備、人財などのアセットを相互に有効活用



4 プロジェクトトピックス

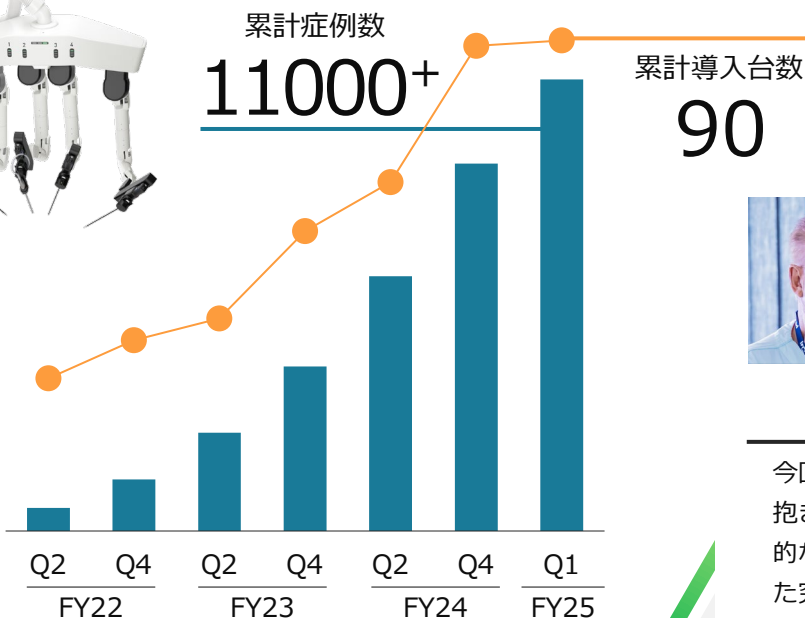
hinotori™が羽ばたくとき※

ー メディカロイドの事業進捗について ー

- hinotori™を手掛けるメディカロイドは、**2025年度に単年度黒字化**を計画
- hinotori™は国内で実施されるロボット支援下手術の**9割以上**をカバー可能であり、着実に導入台数・症例数（手術件数）を伸長



※hinotoriは(株)メディカロイドの商標です



遠隔手術を指揮した
ジャック・マレスコー氏

2001年に行われた世界初の遠隔手術「リンドバーグ手術」を執刀。20年を経た今もおテクノロジーの外科手術への応用研究における世界的な権威として活躍

今回の成功は単なる技術進歩の域を超え、長年抱き続けたビジョンを体現するものです。地理的な障壁を打ち破る外科手術の均てん化に向けた究極の一步です。

✓ 2024年4月

胸部外科領域（呼吸器外科）への適応について承認を取得

✓ 2024年9月

マレーシアにおける販売承認取得

✓ 2025年3月

欧州医療機器規則に基づく「CEマーク」認証取得に向けた申請を実施

✓ 2025年6月

欧州と日本間で初となる遠隔手術の実証実験に成功

地球の外周4万Kmの半分以上!!
NTTコミュニケーションズ(株)の高速で安定した通信ネットワークインフラを活用することで実現



4 プロジェクトピックアップ

水産養殖「MINATOMAÉ」プロジェクト※1 ー持続可能な水産養殖システムで食料安全保障に貢献ー

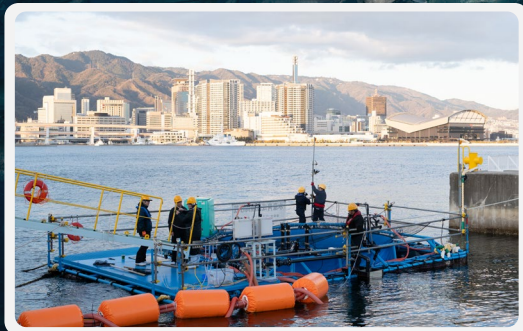
- 🐟 持続可能で環境負荷が少なく、赤潮や水温変化などの外的要因に強い海面閉鎖式の養殖技術「MINATOMAÉ」システムを開発
- 🐟 これまで養殖生産地として活用されていなかった港や海岸の近くの海域でも養殖が可能に
- 🐟 本システムを通じて、港湾地区や海岸近くでの水産養殖業の新たな可能性を提案

※1 本プロジェクトにおける養殖魚の育成や流通についてはマルハニチロ株式会社の支援を受けています

▼トラウトサーモンを生簀に移す様子



▼神戸港（当社神戸工場岸壁近く）での育成試験



なぜ川重が水産養殖??

日本は先進国の中でも食料自給率が低く、持続可能な農業や水産業の構築が急務であると言われています。

この社会課題に対し、当社のプラント開発で培ってきた濾過と殺菌に関する**水処理技術**や、船舶・船用機器、鉄道車両の開発などで培ってきた**流体制御のノウハウ**が水産養殖業を通じて活かせると考えました。

当社プレスリリース

https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20250414_1.html



「MINATOMAÉ」システムの**スゴ**いところ

- ✓ 外部からの寄生虫やウイルスの侵入をブロック
- ✓ 海水の水質や飼育環境を常時モニタリング
- ✓ 生簀内における水流のコントロールと酸素供給の最適化

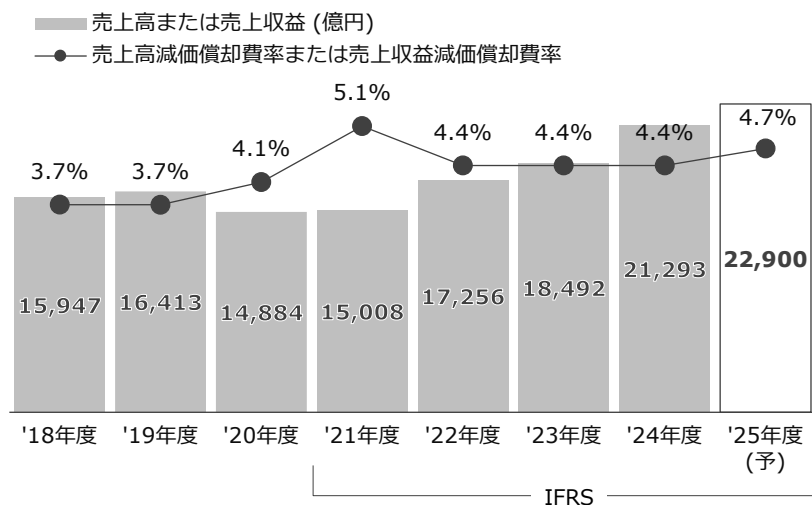
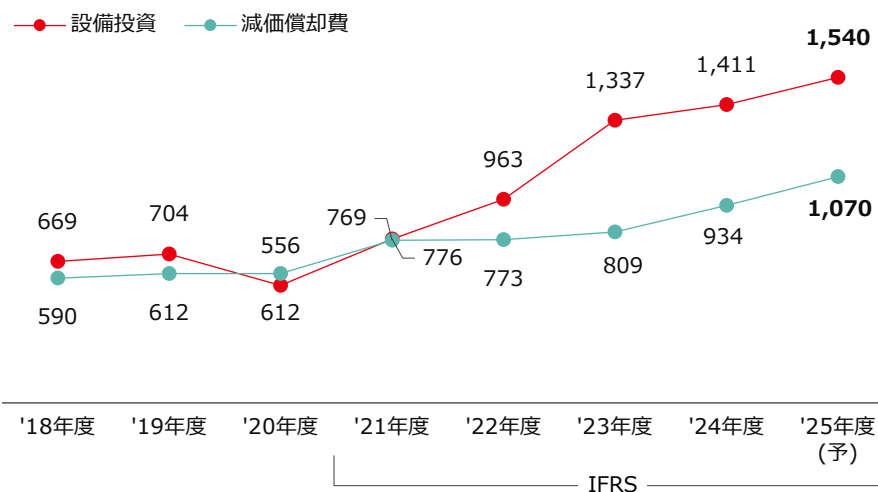


従来の海面養殖に比べ、約**4倍**※2の飼育密度を達成

※2 当社神戸工場海域で実施したトラウトサーモンの育成試験結果による（30㎡の生簀で60kg/㎡の飼育密度を達成）

(単位：億円、名)

	'24年度 1Q実績	'25年度		'24年度 通期	'25年度	
		1Q実績	前年同期比		予想	前期比
設備投資	339	330	▲ 9	1,411	1,540	+ 129
減価償却費	211	244	+ 33	934	1,070	+ 136
研究開発費	136	136	▲ 0	489	640	+ 151
従業員数(期末)				40,640	43,680	+ 3,040
うち国内				29,072	30,610	+ 1,538
うち海外				11,568	13,070	+ 1,502



● 四半期別受注高推移 (億円)

	2023年度				2024年度				2025年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
航空宇宙システム	1,187	744	1,392	3,600	882	1,217	4,701	2,027	989
航空宇宙	1,044	980	1,080	2,463	543	584	4,356	1,511	651
航空エンジン	142	▲ 236	312	1,137	339	633	345	515	338
車両	164	136	117	469	170	107	132	2,104	148
エネルギーソリューション&マリナ	1,023	1,160	628	1,204	1,218	892	2,174	1,135	866
エネルギー・プラント・船用推進	947	932	582	1,125	565	884	976	1,117	815
船舶海洋	75	227	45	78	653	7	1,197	17	51
精密機械・ロボット	540	490	546	557	616	630	612	634	639
油圧機器	366	309	343	342	360	388	337	388	436
ロボット	173	181	202	214	256	241	274	245	202
パワースポーツ&エンジン	1,439	1,231	1,372	1,879	1,447	1,085	1,639	1,943	1,602
その他	217	270	235	221	233	451	5	242	217
合計	4,573	4,034	4,292	7,933	4,568	4,384	9,265	8,088	4,463

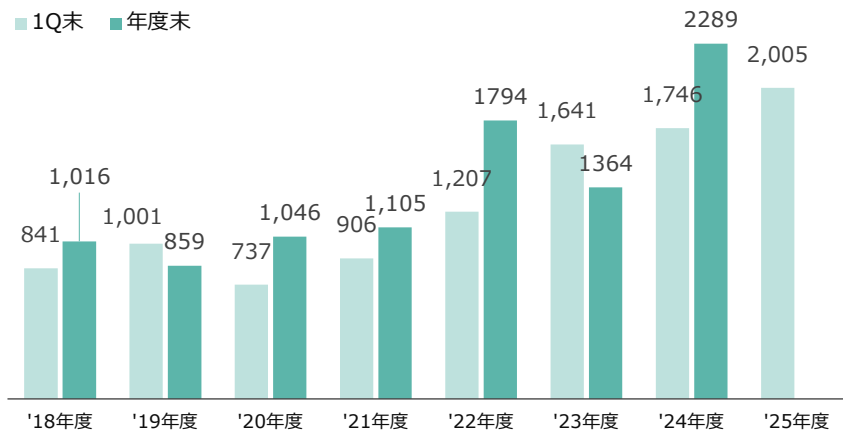
● 防衛省向け受注高・売上収益 (億円)

	'24年度 1Q実績	'25年度		'24年度 通期	'25年度予想			
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比
受注高	248	380	+ 132	7,747	4,000	4,600	▲ 3,147	+ 600
うち 航空機 他	135	243	+ 108	5,847	2,700	3,250	▲ 2,597	+ 550
航空エンジン	12	37	+ 25	389	300	320	▲ 69	+ 20
潜水艦、艦艇用主機 他	101	100	▲ 1	1,511	1,000	1,030	▲ 481	+ 30
売上収益	725	715	▲ 10	4,008	4,700	4,700	+ 692	-
[全社の売上収益に占める割合]	[16.3%]	[14.7%]		[18.8%]	[20.3%]	[20.4%]		
うち 航空機 他	467	412	▲ 55	2,806	3,285	3,285	+ 479	-
航空エンジン	42	36	▲ 6	254	315	315	+ 61	-
潜水艦、艦艇用主機 他	216	267	+ 51	948	1,100	1,100	+ 152	-

● 受注残高 (億円)

	'24年度1Q末 実績	'25年度1Q末	
		実績	増減
航空宇宙システム	10,277	12,827	+ 2,549
車両	4,762	4,795	+ 33
エネルギーソリューション&マリン	7,263	8,126	+ 863
精密機械・ロケット	926	983	+ 57
パワー・スポーツ&エンジン	-	21	+ 21.0
その他	442	460	+ 18
合計	23,672	27,216	+ 3,543

● 船舶海洋 受注残高の推移 (億円)



● 船種別受注実績および完工年度 (隻)

	受注 '25年度 1Q 実績	完工年度				受注残
		'25年度 1Q 実績	'25年度 2Q~	'26年度	'27年度~	
			予定			
LPG運搬船		1	3	4	4	11
潜水艦				1	1	2
その他						
合計		※1 1	3	5	5	※2 13

※1 '25年度1Q完工隻数の総トン数：50,400GT

※2 受注残隻数の総トン数：554,400GT（潜水艦の排水トン数はGTに含まない）

● 地域別売上収益 (億円)

	'24年度1Q	'25年度1Q	
	実績	実績	増減
日本	1,575	1,777	+ 201
米国	1,450	1,598	+ 148
欧州	550	554	+ 4
アジア	656	663	+ 7
その他	209	290	+ 80
合計	4,442	4,884	+ 442

※ 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています

2024年度1Q

	日本	米国	欧州	アジア	その他	合計
航空宇宙システム	538	301	194	0	15	1,049
車両	79	342	-	16	-	438
エネルギーソリューション&マリッ	566	4	36	133	61	801
精密機械・ロボット	148	43	34	291	8	526
パワー・スポーツ&エンジン	88	757	285	195	120	1,447
その他	153	1	0	18	3	178
合計	1,575	1,450	550	656	209	4,442
[割合]	35.5%	32.7%	12.4%	14.8%	4.7%	100.0%

2025年度1Q

	日本	米国	欧州	アジア	その他	合計
航空宇宙システム	495	347	155	0	17	1,015
車両	163	369	-	19	-	552
エネルギーソリューション&マリッ	705	0	59	105	96	966
精密機械・ロボット	148	45	37	328	9	569
パワー・スポーツ&エンジン	115	834	301	189	162	1,603
その他	149	0	1	20	4	176
合計	1,777	1,598	554	663	290	4,884
[割合]	36.4%	32.7%	11.4%	13.6%	5.9%	100.0%

● 通貨別損益影響外貨量※1 (億USD、億EUR)

		'24年度 1Q実績	'25年度	
			1Q実績	2-4Q予想
USD	航空宇宙システム	1.6	※2 1.9	8.7
	車両	0.7	0.3	0.8
	エネルギーソリューション&マリッ	0.6	0.7	1.2
	精密機械・ロボット	0.3	0.4	1.0
	パワースポーツ&エンジン	1.7	1.9	7.9
	合計	4.9	※2 5.2	19.6
EUR		1.0	1.1	4.6

※1 為替変動に伴い事業利益に影響を与える外貨量であり、USDおよびEURのみ記載（川崎重工業、川崎車両、カワサキモーターズの外貨建売上から外貨建仕入を控除して算出（損失引当済み案件の外貨建売上を含む））

（例）損益影響外貨量が10億USDある場合、為替レートが対USDで1円円安または円高に変動すると、事業利益が10億円増加または減少

※2 PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高を除く

● 売上加重平均レート (EUR/JPY)

'23年度実績	157.09
'24年度実績	163.07
'25年度1Q実績	162.60
'25年度2Q-4Q前提	165.00

(ご参考) ROIC算出式

税後ROIC = {親会社の所有者に帰属する当期利益 + 支払利息 × (1 - 実効税率)} ÷ 投下資本※2

※3 投下資本 = 期首・期末平均のNET有利子負債 + 期首・期末平均の自己資本

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する
“Global Kawasaki”